筑波大学新聞

第245号
編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 嶺 隆
TEL：029(853)2040・6699
E-mail
shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月 刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1ー1ー1

教授風中年男「お金貸して」

10万単位の被害続出
構内で寸借詐欺繰り返す

「お金をなくしたので、ちょっと貸して欲しい」。同情を引くような言葉にころっとだまされて寸借詐欺の被害にあった本学生が昨年7月からすでに4人、被害総額は82万5000円にのぼる。ネットオークション詐欺や振り込め詐欺の被害も、届出のあったものだけで昨年8月から8件。新学期に入り大学構内で車上荒らしも目立つ。「善意はいいが、あまりにも無防備だ」とつくば中央署の警察官も驚く。犯罪に用心の鍵が必要のようだ。

男が出没した付属病院付近のループ

4月12日午後7時ごろ、2年生のAさんは、構内のペデストリアンデッキで、見知らぬ中年男性に声をかけられた。「お金を無くしてしまったので貸して欲しい」。髪をきちっと分け、身なりもきちんとした「渡哲也風の男」だったという。Aさんは大学教授だと思い、信用した。自らの車に男を乗せ、最寄りのATMへ行き、そこで現金20万円を引き出して男に渡した。

借用書を書いて、返済の連絡をしたいからとAさんの携帯電話の番号を聞く。Aさんが教えると、男は居直るように「自分は山口組系暴力団員だ」といって立ち去った。不安になったAさんは29日、つくば中央署生活安全課に相談すると、同様の手口でほかにも現金を貸した人がいると知り、被害届を出した。

男は本学生を標的に寸借詐欺を繰り返している。昨年7月12日、つくばセンター1地区で1年生（当時）から12万5000円、同18日、4年生（同）から高級腕時計のイミテーションと引き替えに12万円を借用し、24日には別の3年生に声をかけ、数度にわたり合計38万円の現金を借り、いずれも未返済になっている。

この男は、身長160センチくらいで短髪。目は丸く面長。夏でも上下背広を着て、セカンドバッグを持っているという。出没する場所は大学構内のペデストリアンデッキ付近や附属病院付近、ゆりのき通りのほか、筑波学院大周辺など。同署は本学生をねらって寸借を繰り返していると見て捜査を進めている。

調べによると、男は2000年に詐欺容疑で逮捕、70件について立件され、懲役3年の実刑を科せられた。昨年7月、北海道の刑務所を出所した。

捜査員は似顔絵を持って捜査に当たっているが、注意を喚起するため近く公開することも検討している。

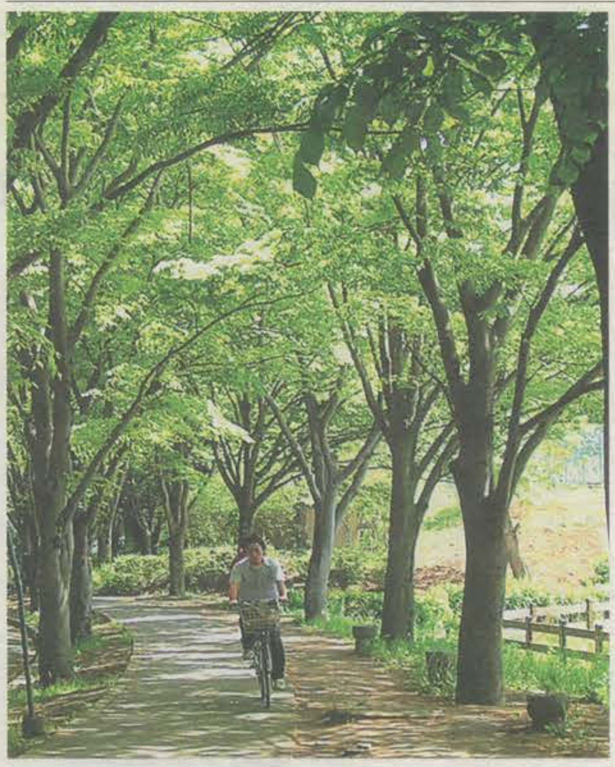
振り込め詐欺被害も

インターネットオークションで2万8000円の電気製品を落札、購入し、昨年12月2日、所定の口座に振り込んだ。一定の期間をすぎても商品が届かず、売り手と連絡がとれないことから警察に相談、被害届を出した。同様の被害届は12月から今年1月の2カ月間に合せて5件あった。11万円以上の被害にあった学生もおり、分かっているだけでも被害総額は約30万円。

アダルトサイトの退会金と称する請求書を送りつけられ、3万円を振り込んだ本学生もいる。本学生が振り込め詐欺にあった報告は3件。学生生活課には、本学生の保護者から「子どもが事故にあったので示談金を振り込むようにという電話があった」という問い合わせもあるという。

車上荒らし頻発

入学式直後の4月10日夜、第一学群付近の駐車場に止めてあった大学院生の車からバッグ、参考書類が盗まれた。現金の被害はなかった。院生は、新歓行事に出席するため夕方から翌朝にかけて長時間駐車していた。犯人は特殊加工した差し金を使っており、同署は「同じ駐車場内のほかの自動車も被害にあっているのではないか」とみている。翌11日夜にも、構内の駐車場で本学生の車の窓が割られ、カーナビゲーション（10万円相当）が盗まれた。被害届は2件にとどまっているが、同様被害が多発しているようだ。



快晴の五月 若葉萌ゆる

GW中日の3日、つくばに青空が広がった。松美池付近のループでは、立ち並ぶ木々の新緑が輝いている。時折、部活動にでも向かうのか、学生の姿が目についた。若葉のみずみずしさは、通りかかる人の心を和ませている。GWで賑わう中、昼下がりの静かな木陰には爽やかな風がそよいでいた。（撮影・城下めい子＝日本語・日本文化学類）

紙面から
学生生活実態調査 自由記述に回答 2
芸術学系30周年 TXと記念事業 5
水泳 背泳の宮下 世界水泳へ 9
ズームアップ 学内のネットワーク管理 10
草野さん主演「長崎11・02」 11
第31回雙峰祭 参加団体を募集 12
特集 6,7
愛・地球博
教員・学生・卒業生 さまざまに参加
ミニ特集 3
法人化から1年
改革への布石は?

21世紀COE 4拠点に4億2千万円
若手の育成支援重点に

国際競争力のある教育拠点形成のため、優れた研究に予算を重点的に配分する、「21世紀COEプログラム」の文部科学省からの今年度補助金交付決定額が公開された。本学の4拠点については、化学・材料科学分野の「未来型機能を創出する学際物質科学の推進」（拠点リーダー＝門脇和男教授・数理物質）に1億2870万円、生命科学分野の「複合生物系応答機構の解析と農学的高度利用」（深水昭吉教授・生命環境）に7040万円、学際・複合・新領域分野の「健康・スポーツ科学研究の推進」（西平賀昭教授・人間総合）に1億450万円、感性認知脳科学分野の「こころを解明する感性科学の推進」（桝正幸教授・人間総合）に1億2030万円、それぞれ交付される。いずれも昨年度と同水準の額だった。大学全体でみると、全国の国公立大学で10番目にランクされる。

研究戦略室長で「複合生物系」の深水教授は、「02年度から減額されてないということは一定の評価をされていること」と話した。中間評価で若手研究者の育成・支援が必要と指摘されたことを受け、今年度からは大学院生の研究支援を一層推進するという。

国際学会に参加する際の旅費の支給や、大学院生主導のセミナーやシンポジウムの充実を図る。学外から研究者を招く若手シンポジウムは、他のCOEプログラムと合同で3回開いた。現在は、9月に予定する4回目に向けて、若手主導でオープンセミナーを月2回開いている。

深水教授は「大学院生主導型の研究で、学外に広くアピールしたい。外部資金獲得のためのマッチングも積極的に行っている」と話した。

学群・学類再編 編成委を設置
具体化進める

07年度に予定されている学群・学類再編について、検討委員会（委員長＝岩崎洋一学長）が「考え方と基本骨格」を4月21日の教育研究評議会で報告した。基本骨格を具体化するため、5月の教育研究評議会で「新学群編成委員会」が設置される見通しだ。

編成委員会は、新学群の基本理念、教育課程の編成、実施スケジュールなどを審議する。

委員長は林史典副学長（教育担当）、副委員長は腰塚武志副学長（組織・人事担当）が務める。このほか学各学群長、林純一群教育室長、笹井弘之調整官、吉武博通学長特別補佐などで構成する。

編成委員会の下には、新しい学群ごとに専門委員会を設け、詳細を新学群の教員に諮る予定。

筑波おろし

脱線の原因は何だったのか。制限速度を大幅に超えてまで遅れを回復しようとした23歳の運転士。事故の現場となったカーブは利便性向上のために8年前に付け替えられ、ゆるやかなカーブではなくなっていた。JR福知山線で起きた惨事は、利便追求型の社会に大きな波紋を呼んでいる▼大手私鉄との競合による「過密ダイヤ」、若手ばかりに偏った年齢構成、「日勤教育」による社員への圧力。01年には、3日間の日勤教育の終了翌日に自殺した運転士もいたという。今回の事故を起こした運転士も過去3回、日勤教育などの処分を受けていた▼JR西は国鉄分割民営化で87年に発足した。01年度には国の後ろ盾がなくなり、経営の効率化がますます進んだ。03年には関西私鉄5社がひしめく中で、業績を2倍に伸ばした▼効率化の波が社会全体を席巻し、教育をも浸食する。03年から05年までに、本学の職員は45人減った。法人化から1年、「学問の府」は経営体へ着実に変化している。▼将来的にはカリキュラムの整理も進む。学群・学類再編により、学類間の単位互換が進む。長年本学に勤務する、ある教員は「教員も整理されるだろう。だが、無駄な学問があるのだろうか」と不安を口にする▼犠牲者は107人に上った。その重さは、JR西のみならず社会全体につきつけられた。

9月開設の国際経営プロ専攻

ハワイ大でFD研修

カリキュラム 実践型に組み直し

今年9月に東京キャンパス（文京区大塚）に開設されるビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻の準備が進んでいる。3月28日から4月1日までの5日間、ハワイ大ビジネス研究科と日米経営科学研究所（JAIMS）が受け入れ先となって教員のファカルティ・デベロップメント（FD）が行われ、専任教員12人が参加した。ハワイ大では授業を見学し、同大教員による授業評価などを行った。本学の教員が海外でFDを行うのは初めて。

同大教員は、積み木などのおもちゃ、紙芝居などを用いて教育とは何か、学生とのコミュニケーションの取り方を講義した。授業を見学した椿広計・同専攻設立準備室長（ビジネス・教授）は「大学院の授業であるにも関わらず、シミュレーションやゲームを交えて授業をしている。小道具を使用する教員も多く、カルチャーショックを受けた」と語る。

最終日の4月1日は同大学生の前で、12人全員が授業を行った。同大の教員、学生、JAIMSの職員が、「難しい概念を簡単に説明しているか」「補助教材をうまく使っているか」「学生とのアイコンタクトができているか」など11項目を4段階評価で採点した。

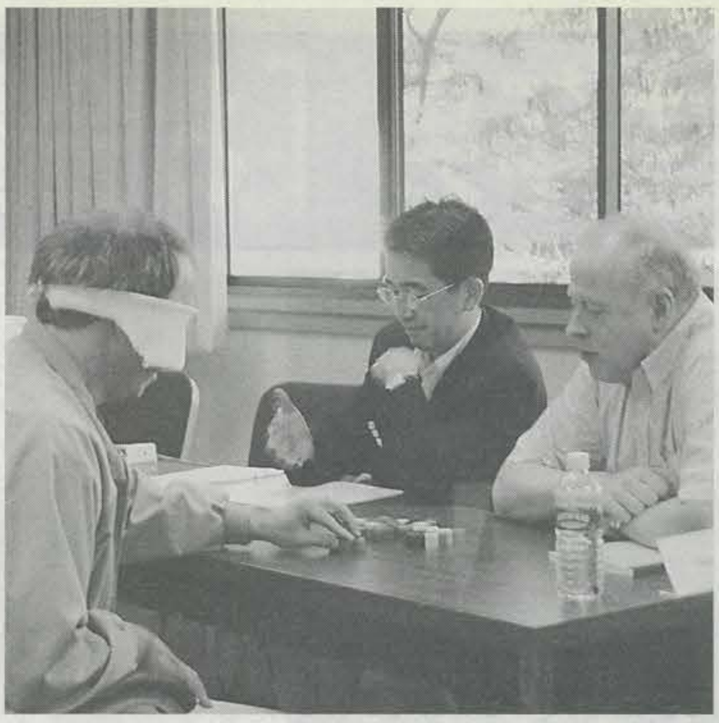
今回のFD研修を受けて、今後は講義形式に偏っていた授業を再編する。カリキュラム編成を担当する永井裕久教授（ビジネス）は「具体的な例を用いて問題を解決させる実践型のカリキュラムに組み直したい」と目標を話した。

同専攻は20代後半の社会人を対象に国際経営における高い経営技能の育成を目指す。専任教員は17人で、うち7人は現役の会社経営者を迎える。7人は最新の経営技能に関する講義を行ってもらうため2年任期で任用するという。

食品輸入の草分け的存在で、マーケット・メーカーズ代表取締役のジェフリー・マクニール氏などを教員に迎え、自身の体験を交えた経営戦略の授業などを行う。日英2言語教育に重点を置き、5人が外国人教員で、必修科目はすべて英語で授業が行われる。

最終学期にはアメリカや中国など海外企業で3カ月間の実習を課す。海外での実習が不可能な学生には、勤務する会社での実習が課せられる。椿室長は「経営のプロを育成するには座学だけでなく、現場で実習するまでの過程が一番大切だ」と話している。

4月30日に入学申請書の提出を締め切った。募集定員30人。合格発表は5月下旬で、入学式は8月に行われる。



積み木を使った実践型の講義を受ける教員（ハワイ大で）

学生生活実態調査

自由記述に初の回答

事務職員へ要望相次ぐ

学生生活の実態を把握するため、03年10月に実施された学生生活実態調査の自由記述に対して大学は回答をまとめ、学生向け広報誌「つくばスチューデンツ」（特集号）で発表した。これは、自由記述欄に記入された学生からの意見や要望約千件の中から主なものを勉学、事務職員への要望、施設、就職などの17項目に分類し、回答した。調査は1978年に始まり、5年ごとに実施され、今回で通算7回目となる。調査結果に、回答するのは今回が初めて。

事務職員への要望では「態度が高圧的で怖い」や「学生へ柔軟な対応をして」などの声が多数挙がった。これに対して、大学は近くスタッフ・デベロップメント（SD）研修会を実施する予定だという。

宿舎風呂に対する要望も多く、「営業時間の延長」「シャワー施設の増設」を求める声が目立った。学生生活課は「コインシャワーの増設も検討している」と述べる一方で、「早急な対応は困難」とした。宿舎風呂の営業時間延長に関しては、全学学類・専門学群代表者会議が2学期に実施するアンケートの結果を受けて検討したいと回答した。

「建物が老朽化している」、「暖房の時間帯を変更して欲しい」、「共有スペースが汚い」などの記述も多かった。これを受け、今年度から午後4時から午後10時までの暖房運転時間を、午後4時半から午後10時半までに変更する。また、施設部は、追越25号棟を、近く大型改修する予定だ。

勉学に関してはカリキュラム編成の改善を求める声が86件と最も多かった。「三学期制のため、就職活動に支障が出る」など2学期制への変更を求める声も32件と多く、「魅力のある授業がない」などの意見もあった。

この他、食堂、駐輪マナーの改善や学内バスの運行時間変更などを求める意見が出された。

大学は「学生が今求めていることが凝縮されている。調査を無駄にしないためにも、学内全体で最大限要望に対処していく」と話している。

登社長のVB 売り上げ好調

初年度 目標超す

登大遊さん（情報3年）が昨年4月に立ち上げた株式会社「ソフトイーサ」（本社・つくば市、資本金100万円）の初年度売り上げが、目標額を100万円上回る1300万円に達した。純利益は400万円だった。

同社は、登さんが発明したLANを使わずパソコンネットワークを構築するVPN構築ソフト「ソフトイーサー」の開発、販売を行う。設立当初から、企業向け販売を三菱マテリアルと独占契約し、順調に業績を延ばしてきた。

今後は、さらに改良を加え、新ソフトの開発などに力を入れるという。「2年間で売り上げ2億円を目指す」と登さんは話した。

本学と常陽銀行

連携協力協定結ぶ

本学と常陽銀行（本店＝水戸市）が4月28日、連携協力協定を締結した。本学が保有する人的・技術的資源を社会に還元し、産学連携を推進する。

今後①本学発ベンチャーに関する情報交換と支援②新技術・新規事業分野に関する情報交換と支援――を二本柱に協議する。①では、産学リエゾン共同研究センター（ILC）と組織的に連携して、本学発ベンチャー企業を支援し、②では、本学の持つ新技術や新規事業創造に係る情報を常陽銀行経由で地元企業に提供する。常陽銀行は本学発ベンチャー企業と業務連携が可能な地元企業を紹介する。

将来的には、常陽銀行から本学へ人材を派遣し、本学生のインターンシップ実施も検討する。この他、本学が主催する起業家育成セミナーに、常陽銀行が講師を派遣するなど、連携を推進していく予定だ。

常陽銀行と東京三菱銀行は、本学の指定金融機関。今後、東京三菱銀行とも同様の連携協定を進める。

キャンパスリニューアル

生物・農林学系D棟を一新

扉の脇を五色に塗り分け

内装を一新したD棟

生物・農林学系棟D棟（部屋数25）のリニューアル工事が5月2日に完成した。3月下旬に始まり、各階廊下の壁を白く塗り直し、実験用の薬品による腐食を防ぐため、床を腐食しにくい材料で舗装した。廊下の外側は全面ガラス張りなので、窓に部屋番号を切り抜いたカッティングシートを貼って、日差しで部屋番号の影が壁や床に映るような工夫もこらした。

このリニューアル工事は、芸術専門学群の実習の一環で、建築デザインコース5人、総合造形コース1人の計6人の学生が企画・デザインに携わった。

昨年10月に作業を始めた。各研究室にアンケートを行ったほか、各学系の代表と実習で指導した貝島桃代講師（人間総合）、学生が2週間に1度、計6回話し合った。

研究室の扉まわりは配色にこだわった。扉が一歩奥まった凹部にあるため、扉の両脇の壁を1階から5階まで黄、オレンジ、赤、緑、青の5色に塗り分けた。

「1階は差し込む光が少ないので暗く、5階は眩しい」という利用者の声を反映させ、下層階に暖色系の色を塗った。

作業に携わった森田亮さん（芸術4年）は「全面ガラス張りの特徴を生かした。内装を一新して、外からの印象も鮮やかにした」と話している。

筑波大学行動計画

仕事と子育ての両立へ環境整備

03年7月に公布された「次世代育成支援対策推進法」を受け、人事課は4月13日、「国立大学法人筑波大学行動計画」を茨城労働局に提出した。これは、仕事と子育てを両立しようとする職員が、働きやすい環境を作るための目標を定めたもので、4月から随時対策が練られていく。

行動計画には、子どもが生まれる際に父親の休暇取得を促進する、小学校就学前の子どもを育てる育児部分休業をPRし、育児休業や時間外勤務・深夜業の制限、育児休業給付など諸制度を周知することなどが盛り込まれている。

「次世代育成支援対策推進法」により、301人以上の労働者を雇用する事業主は、労働者が仕事と子育てを両立できる環境整備を考えた行動計画の作成が義務付けられた。昨年4月の国立大学法人化により、本学にも同法が適用されることになった。

ウラン冷蔵庫廃棄

男性講師を減給

昨年7月に臨床医学系が廃棄した冷蔵庫内に酢酸ウラニル水溶液が放置されていたうえ、冷蔵庫内にあった過酸化水素に触れたつくばクリーンセンター（つくば市水守）の作業員2人が化学熱傷を負った事件で本学は、冷蔵庫を廃棄した人間総合科学研究科の男性講師（40）を4月15日付けで0・5日分を減給する懲戒処分にした。講師の行為は、「毒物及び劇物取締法と本学の規則に違反し、本学の信用を傷つけた」とされ、3月17日に開かれた教育研究評議会で審議の上、処分を決定した。

冷蔵庫内に放置されていたのは放射性物質の水溶液5cc程度が入った試験管と過酸化水素水。水溶液は放射性管理区域内で管理する必要のない濃度だった。

男性講師は03年11月、研究室を整理する際に冷蔵庫の中を確認しないまま捨てていた。処理に当たった作業員ら2人は過酸化水素水で手に全治3、4日のやけどを負った。

この事件を受けて、本学は昨年度から劇物・毒物等をバーコードで管理する「試薬管理システム」を全学的に導入し、管理徹底を図っていくという。

春の叙勲

本学は2人受章

政府は4月29日、05年春の叙勲受章者4057人を発表した。本学からは、放射化学が専門の池田長生名誉教授（79）と量子力学が専門の三雲昂名誉教授（同）が受章した。

法人化一年 改革への布石は？

2004年4月の国立大学法人化から一年――。規制緩和を押し進め・教育・研究を活性化すると位置付けられた法人化によって大学はどう変わったのか。大学改革の第一歩をまとめた。（本紙・清原碧＝社会学類、中田絢子＝比較文化学類）

教育

入試改革は国大協待ち

林史典副学長（教育担当）は、法人化したこの1年を「組織改革を行い、教育改革に向けて新しい試みを始めた」と振り返った。本学独自の教育のあり方とは何か。1年間、模索が続いた。

■筑波スタンダード

学生のいわば「品質保証」として、本学は公表した中期計画の中で、広い視野、豊かな人間性、そして確かな学力の到達レベルを「筑波スタンダード」として設定すると発表した。「数値目標を導入するのか」「文系理系も合わせた総合的な評価基準が設定可能なのか」という議論が当初からあった。

林副学長は「大学としてまとまった形で公表することに大きな意味がある」というが、未だ明確な見通しは立っていない。現在検討中の学群再編案が固まり次第、新しい教育組織に基づく検討を進めるという。

■授業改善

昨年度は、全学的な授業評価を行い、2月には結果をもとにファカルティディベロップメント研修会を行った。「授業内容の充実」を図るための試みだったが、授業評価の回答率は18パーセント。学生の関心は依然低いが、本年度から学類・専門学群が独自に実施する専門科目のほか共通科目でTWINSを使った全学的な授業評価が本格的に始まる。

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の市橋創議長（人間3年）は、「授業評価の生かし方があいまい。学生に具体的に提示しないと関心は高くならないのでは」と懐疑的だ。林副学長は、「共通科目については結果を公表したい」といい、「どう利用するかは各教育組織に委ねたい」としているが、各教育組織の動きは全学的に提示されていない。

■入試改革

優秀な学生をより多く獲得するための入試改革も重要な課題だ。

昨年、国立大学協会が分離分割方式を弾力化した。本学でも自然学類、芸術専門学群など5つの学類・専門学群で06年度入試から後期日程を廃止することを決定した。林副学長は「複数の入試の機会は担保しつつ入試改革を進める」と話す。

朝日新聞社が実施した国立大学長アンケートでは全国89の大学のうち、入試日程の見直しを検討中と答えたのは63校。

本学も見直すとしているが、林副学長は「入試改革については国立大学協会の方針の中でしか、自由度がない」という。国大協は08年度以降の入試のあり方を検討中で、その結論を待って改革に取り組むことになる。

夢と希望を持って――2004年度入学式で

研究

特許出願件数が大幅増

法人化後、大学の発明、特許権に内外の関心が集まっている。大学固有の収入源として見直されたという一面と、研究成果の社会還元という両面があるからだ。法人化をにらんで本学も着々と準備を進めてきた。数字の上から、変化をみてみよう。

教員の知的財産を大学に帰属させ、管理を一元化するため03年9月に知的財産統括本部（本部長＝油田信一副学長）が設置された。

教職員や学生が、大学の研究によって発明した場合、その成果を知財統括本部に届け出ることが義務づけられた。同本部は、届け出のあった発明を審査し、特許として出願することになる。

法人化初年度の04年度、発明の届け出件数は112件で、03年度の114件より2件少ないが、特許出願件数は、03年度の4件から32件と、大幅に増加した。

「出願基準が改定されたことが大きい」と産学連携課はいう。国立大の出願基準は、国によって定められていたが、法人化に伴い、各大学で出願基準を定めるようになった。国の基準は、文科省予算による研究かどうかを重視するものだったが、法人化後、実業化できるかどうかに重点が置かれるようになった。

本学の知的財産ポリシーは、特許権など権利の帰属と継承についての判定基準を①実業化し得る可能性の高い発明②直ちに事業化するのは困難だが、将来事業化の可能性があり、事業化した場合の影響度が大きい発明――と定めている。

外部機関から、研究経費や研究員を受け入れて行う共同研究は、03年度の130件から46件増えて04年度は176件だった。

研究費を受け、学外から委託されて行う受託研究は161件から13件増えて174件と、いずれも増加傾向にある。

産学リエゾン共同研究センター（ILC）の谷田貝豊彦センター長（数理物質・教授）の話 法人化後、予算が削減されたが、そんな中で自分の研究費は自分で確保しなければという意識が生まれ、科学技術振興機構（JST）などに補助金を申請する教員が増えた。しかし、大半は今までどおりのことをやって、様子を見ている段階ではないか。産学連携を推進する支援体制作りはまだこれからだ。

山海嘉之教授（システム）の話 法人化をはさんで、大学は学外に通じる直接の窓口づくり進めてきた。これまでは、その都度、文科省を通さなければならなかったが、大学が窓口を持ったことで、産業界や経済界と連携しやすくなった。フットワークが軽くなったように感じている。

人事

教員の評価 めど立たず

法人化の大きな目的の一つに国の財政負担を軽減するための公務員削減がある。大学の教職員は国家公務員から、労働者の立場に移行し、労働基準法のもとで働くことになった。大学という経営体が、教職員をどう評価するのか、限られた人件費をどう運用するのか。「課題は山積み」と腰塚武志副学長（組織・人事担当）は頭を抱える。

労働基準法に基づいて教職員から選ばれた過半数代表者の千本秀樹教授（人文社会）は「人件費の割合が高い大学ほど文科省の評価は低くなる」と言う。

■教職員の雇用

職員の雇用条件の原則として従来の任用等規則を廃止し、就業規則を設けた。昨年度までは、学長告示という位置付けだった就業規則が、今年から労基法に基づく法人規則として体系化された。

「就業規則が大学にとって重要という認識を執行部が示したことであり、歓迎すべきこと」と千本教授は言う。

■非常勤職員の問題

本学の非常勤職員は600人。常勤職員の約5割程度だ。これまで非常勤職員の任期は1年、更新しても3年間までだった。腰塚副学長は「非常勤という不安定な身分で長く拘束できなかったから」と説明する。

しかし常勤職員と同程度の専門性の高い仕事をする非常勤職員が多いことから、連続勤務年数を5年に延ばした。千本教授は「仕事の専門性を考えると正規に採用すべき人は多い」と言う。

腰塚副学長は「新しい雇用のあり方を議論している。現在の非常勤職員と同じ条件、出勤日数で、正規雇用の可能性などを探っている」という。

■任用ポスト

法人化後、大学が独自に教職員の評価制度を導入することが可能になった。本学は、評価制度確立のための基礎データベースとして研究者情報システム（TRIOUS）を昨年度作成し、公開した。腰塚副学長は「学外からの評価も取り入れ、研究、教育など多角的に評価したい」と話すが、評価制度を設ける具体的なめどはたっていない。

これに対し千本教授は「教員の評価は分野やそれぞれの教員の役割によって分かれるものであり、かなり難しいのではないか」という。

執行部は今年度計画案に基づいて、各教育組織の教員ポストを本部が吸い上げ、再配分する計画を進めている。昨年、標準教員数を教育組織ごとに算出し、当面は、法科大学院や新専攻を中心に新設ポストに割り振っていくという。

財務

依然、交付金頼み

法人化後、各大学が経営権を持つようになったことが最大の特徴だ。使い道を自由に決められる運営費交付金という形で予算が配分されるようになった。大学の特色を打ち出せるようになった反面、大学間競争を勝ち抜くための、「経営努力」も求められる。

6年ごとに策定する中期目標・中期計画の達成度も国立大学法人評価委員会などで評価を受ける。これらの評価は運営費交付金に反映され、研究や教育の成果が財務体質に影響する。

本学では昨年度、社会貢献プロジェクトや教育プロジェクトなどを新設した。予算の配分先を学内で公募することを通して、特色ある研究・教育に重点的に支援するのが狙いだ。

学外者を招き、経営方針を決定する経営協議会も設けられた。国立大学法人法で定められており、委員の半数以上は学外者で構成する。民間の経営ノウハウを取り入れる。

一方で、毎年、運営費交付金は減ってゆく。人件費など必ず必要な管理的経費が毎年1パーセントずつ削減されることになっているからだ。減額分は、その他の政府予算や民間企業の寄付など外部資金で補わなければならない。

本学の今年度の運営費交付金は前年度から約3億7000万円増えた425億9000万円。有望な研究・教育に配分される特別教育研究費で約10億7000万円を得たためだ。

産学連携などによって、積極的に外部資金獲得策を進める一方、人件費や経費の見直しも行っている。職員数も縮小する方向だ。

学群生の授業料は、今年度から1万5000円値上げされた。運営費交付金を算定する目安となる学生一人あたりの標準額が引き上げられたことに対応した。標準額の不足分は各大学で補わなくてはならないため、佐賀大を除く全国立大が値上げを決めた。

外部資金の獲得や経費節減に励む一方、財務基盤が運営費交付金頼みで、独自色を出すことが困難なのが現状だ。大学間競争の中、魅力的な大学をいかにつくるか……。執行部の経営手腕が問われている。

市場原理に異論

法人化前に朝日新聞と毎日新聞に「国立大学法人案の内容に危惧を表明し廃案とすることを訴えます」という意見広告が掲載された。多くの大学人とともに名前を出して、反対を表明した津田幸男教授（人文社会）の話 法人化して、正直何が変わったのか分からない。法人化の一つの目的だった公務員的体質、上意下達の意識改革が、まったく達成されていないんじゃないか。学生、教職員がそんな雰囲気に飼いならされているように思う。全学的にオープンな議論ができるような体制を作らなければならない。先頭に立つ学長にその模範を示してもらいたい。学生、教職員が容易に学長にアクセスできるようにすることが必要だ。

法人化に反対したのは、大学が市場の原理で動くことへの異論を示したかったから。法人化とは、アメリカ型大学のように「会社」に大学を移行させることであり、教育や研究は市場の原理には必ずしもなじまない。成果を強く求める教育は、目先の利益に固執することになるのではないか。

個人研究に北風

文芸・言語学系長の荒木正純教授（人文社会）の話 法人化して、文系の先生方でも外部資金を獲得しようという意識が強くなった。研究費や諸手当ては前より減ったが、外部資金があるので不自由さは感じない。ただ、外部資金はほとんど共同研究。伝統的な分野で伝統的な個人研究ばかりをやっていたら、外部資金はとりにくくなるかもしれない。

自費で賄う研究

平安女流文学を専攻する吉森佳奈子・助教授（人文社会）の話 外部資金に関しては、何度申請しても採択されない。もちろん私の力不足もあるが、古典研究の場合、共同研究をすることがなかったので取りにくいのかもしれない。長年研究をしている優秀な先生でもとりにくいと聞いたことがある。昨年は研究費が足りず自費で賄った。

反射鏡

故郷との分別の差
気になる処理方法

佐和　幸（比文1年）

この春、仙台を離れ筑波入りしました。仙台といえば、七三分けのナイスガイ「ワケルくん」をメインキャラクターに起用したゴミ分別の都。そんな街からこの筑波に越してきてまず驚いたことは、「ビニール燃やしちゃっていいの」。

分別用ゴミ袋（全6種類）が勝手口を埋め尽くしている環境から一転、分別のわずらわしさからは解放されたものの、今度はゴミの行方が気になって仕方がないという状況に陥ってしまいました。ああこのビニールは、発泡スチロールは、一体どうなってしまうんだろう……。

そんなことを考えているとき、友達から気になる情報を入手。ゴミの分別の有無というのは、その地域にあるゴミ処理場の性能によるのだそうです。高温処理が可能な処理場ならば、分別する必要がないとか……。高性能か、ただの手抜きか、茨城のゴミ事情はどっち!?

紙パックの山に
日常生活を見る

澤勢一史（エシス2年）

僕は、昨年度、今年度と宿舎に入っている。宿舎では、ゴミが一般家庭よりも分別されていない。分別の種類は、「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」「粗大ゴミ」の3種類くらいである。そういうわけで、普段出るゴミのほとんどは燃やせるゴミとして処理されている。

分別の種類が少ないので、燃やせるゴミが多い。リサイクルが叫ばれている世の中なのに、ペットボトルも燃やせるゴミとなっている。時代に逆行しているとしか思えない。分別が面倒なことを理由に、僕も一緒に捨ててしまっているわけだが。

しかし、牛乳パックなどの紙パックは捨てていない。どうしても、実家での癖が出てしまうのである。飲み終わった後、中を洗い、乾かしてから切り開いて保管している。昨年4月から溜まりっぱなしなので、100枚以上はあるはずだ。

早めにリサイクルしたいと思うが、眺めているとなかなか面白い。僕の好みの変化が、手に取るように分かる。大半は牛乳であるが、最近はジュース類が増えてきたようだ。

リサイクルと日々の記録が同時にできる、紙パックの保管。置き場所さえあれば、やってみてはいかがだろうか。

ゴミ出しの匿名性
個人の責任逃す

松原麻由子（日・日1年）

つくば市のゴミ出しの容易さには本当に驚いた。最初のうちは分別表を見ながら神経質に分別していたのだが、慣れてくると、適当に捨てるようになってしまった。ゴミ捨て場に持っていってしまえば誰のゴミか分からない、そういう匿名性が私をそんな気持ちにさせる。そこには「責任」という意識はない。可燃ゴミも不燃ゴミも混在しているゴミ袋、規定の日以外に出されているゴミ。しかし結局、その責任を負わされるのはゴミ回収業者である。

宿舎には多くの人が住んでいる。つくば市にはさらに多くの人が住んでいる。

その全ての人が、少しでも適当な気持ちでゴミを捨てると大きな問題になってしまうのである。一人一人が自分の出すゴミに対して「責任」を持たなくてはならないだろう。雑然としたゴミ捨て場を見て、そんなことを思った。

筑波時評

ローマ法王
空飛ぶ教皇の死と影響
新法王への関心高まる

鈴木一人

4月2日に逝去したヨハネ・パウロ二世は「空飛ぶ教皇」と呼ばれ、のべ115カ国、約120万キロに及ぶ訪問を行い、国際政治に強い影響力と存在感を示した特異な法王であった。これまでもローマ法王の地位は政治的なドラマをいくつも生み出してきたが、これほどまでに国際社会に積極的に関わった法王はいなかったといえる。

その影響力の源泉となっているのは、いうまでもなく10億人を超えると言われるカトリック信者の精神的・道徳的リーダーとしての役割であるが、それ以上にヨハネ・パウロ二世という人物が持つ経験と信念であった。

彼は第一次大戦直後のポーランドに生を受け、青年期にナチスによるポーランド侵攻、それに引き続く共産党独裁政権を経験したことで、戦争と政治的抑圧に対する強い意識と感覚を身につけることとなった。

1978年、予想外の形で456年ぶりの非イタリア人法王として選出されると、自らの経験に基づく平和と個人の自由への力強い訴えかけを世界に向けて発信した。

とりわけ重要な意義をもったのは、79年、社会主義政権下のポーランドで信教の自由や脱冷戦思考を訴え、それが80年から始まる自主労働組合運動「連帯」を鼓舞したことである。この「連帯」運動は後の東欧民主化革命の端緒となった。81年に暗殺未遂事件が起こり、彼は一命を取り留めたが、この事件の背景には共産主義体制を揺るがす法王の影響力の排除があると言われている。また、カトリック教国であるチリのピノチェトやフィリピンのマルコスといった独裁政権に対して批判的な見解を示し、独裁政権に抵抗する宗教的正統性を与えたことも国際政治における重要な影響であった。

さらに、プロテスタント諸派や東方正教会との和解やユダヤ教との接近、十字軍のイスラム教徒に対する行為の反省など、宗教間の対話や和解を進める努力をすることで、暗に「文明の衝突」「宗教戦争」といった世界観を批判し、自らの行動をもって世界にアピールを続けた。日本では、81年に広島・長崎において核廃絶を訴えたことが強く記憶されている。

とはいえ、カトリック教会内での法王は著しく多様化する価値観や技術の変化に対して、保守的な対応をしたことでも知られる。一方で、衛星放送を使ったバチカンからのメッセージ発信や法王談話のDVDを発売するなど、技術革新を積極的に取り入れ、バチカンの奥の院ではなく世界中の信者のお茶の間に飛び込む希有な法王であった。

他方で、同性愛や女性司祭、尊厳死、人工中絶の問題に対しては極めて保守的な立場をとった。彼は中絶や安楽死は「死の文化」であり、「いのちの文化（Culture of Life）」を尊重するよう訴えたが、皮肉なことに、この訴えかけがアメリカのプロテスタント右派に取り上げられ、法王の死と前後したテレサ・シャイボさんの尊厳死を批判する論理に使われた。

このプロテスタント右派は現ブッシュ政権の支持基盤であり、彼の保守的姿勢はアメリカの強硬派を元気づける結果ともなってしまった。もちろん、ヨハネ・パウロ二世はアメリカのイラク攻撃に対しては一貫して批判的であったが、彼の言葉はアメリカの武力行使を止めることは出来なかった。

新しく選出されたベネディクト十六世は、ヨハネ・パウロ二世の側近として方針を継承することが期待されているが、保守派で知られる彼は多様化する価値観に分裂している教会内のバランスをとることに苦労するであろう。また、他宗教に対する寛容や平和への想いについても、ヨハネ・パウロ二世と比肩するとは言いがたい。しかし、彼はナチス時代のドイツで青年期を過ごしたため、過激なナショナリズムや強権的政治に対して強硬な姿勢をとるとも言われている。

国際政治の重要なアクターになった法王の座から、彼が「ポスト冷戦後」時代のナショナリズムの興隆や民族紛争などについて、どのようなメッセージを発信するのか注目してみたい。

（講師・人文社会）

留学生の目

ヘナト・オロスコ

ハグで示す友情の証
文化の違いに理解求む

私が初めて日本に来たとき、滋賀県にある語学学校に日本語を勉強するために1カ月ほど滞在した。仲間は私のような外国人ばかりで、少しも日本語がわからなかった。また、日本人消防士のグループも住んでいた。彼らは、外国人の救助もできるように世界中の言語を学んでいたのだ。

ことばの壁はさておき、アルコールというもので私たちは彼らとすぐに友達になった。勉強した後、お互いに酒、ウォッカ、テキーラ、ブラジルのお酒など飲み物を持ち寄って集まった。私たちはできるだけ日本語で話そうとし、彼らは場合に応じて学んでいる言語を話そうとした。言語の問題はあったけれど、いくつかの単語と顔での表現、ボディーランゲージ、たくさんの酒を使ってコミュニケーションをとり仲良くなった。

コミュニケーションは上手くとれていたが、文化の違いによって笑える出来事もしばしばあった。私は友達になった日本人の消防士と離れることになったあの日のことをはっきりと覚えている。私の母国ブラジルの習慣で、その友達と別れるときに「さよなら」のハグをした。すると、彼は「変な外人！変な外人！」と言って死に物狂いで私を突き飛ばし、恐怖におののいていた。母国のブラジルでは、この出来事は感動をもたらす瞬間だった。何度も一緒に酒を飲んで、確かに友達になったと思っていたが、私たちは習慣を分かち合っていなかったのだ。ブラジルの文化では、誰かにハグすることは友情の証とその人への配慮を意味する。日本人の文化で考えると、彼の解釈は全く問題ないし、それは気味の悪い行為でしかないのである。

「日本では、酔っぱらいと子どもと外人はいつも許される」という事を私は聞いた。だから、突然ハグしようとするブラジル人の私に会ってもびっくりしないで下さい。それは私のあなたに対する友情の証です。私の国からあなたに贈る「つまらないもの」として受け取って下さい。お願いします。

（ブラジル・国際政治経済学専攻1年、日本語訳・城下めい子＝日本語・日本文化学類）

4月号の学類紹介を読んで
持ち前の「暖かさ」が魅力

佐藤　翔（図情2年）

先号の学類紹介を読んで「ひどい」と思い、図書館情報専門学群の紹介をやり直すことにしました。

図書館情報学は「誰もが必要な情報を、必要な時に、必要な形式で使える」ようにするための学問です。目的は至って明解。ただ、そこに至るアプローチが多岐にわたるので図情には文理を問わず色々な学生が入ってきます。本を読まない人も、パソコンが苦手な人も、眼鏡をかけていない人もいます。ある意味とても紹介しにくい学群です。それでもあえて紹介するなら、私は図情をとても「暖かい」学群だと思っています。

例えば宿舎。図情生しか住んでいない春日宿舎の住民同士の交流の深さは群を抜いています。補食室で一緒にご飯を食べたり談話室で皆で遊んだり。一人暮らしと「共同生活」を同時に体験できることは春日宿舎最大の魅力です。

あるいは教職員。図情は学群と研究科が直結していることもあり、どの先生も教育熱心です。研究室と教室も近く、教員と学生の交遊の機会も多いです。こうしたコミュニティ内での交流の深さ、人と人との「暖かさ」こそ他学類にない図情の最大の魅力だと私は思っています。

もちろんそうした図情の良さは図情がまだ筑波大と合併して日が浅く、孤立気味であることとも無関係ではありません。

しかし最近ではそうした事情も変わりつつあります。このごろ、色々な所で図情生を見かけるとは思いませんか。自転車10分の距離もものともせず、図情生は筑波大に急スピードで進出しています。図情はまだまだ途上です。特有の「暖かさ」を保ったまま外にも目を向けだした今、ついに図情の時代が始まったと言えるでしょう。10年後に「筑波大？ああ、図情がある大学ね」と言われるために、新入生のみなさんもがんばっていきましょう。

次号のテーマは「共通体育」です

連絡先
TEL　029・853・6699
e-mail　shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

「芸術の風つくばから」
芸術とTXが記念事業
創設30周年と開通祝う 学外へ研究成果を発信

本学の芸術系組織創設30周年とつくばエクスプレス（TX）開通の記念事業の一環として、5月3日から22日にかけて「春のStyle Tsukuba芸術の風つくばから」と題するイベントが開催されている。美術系の大学で、記念事業を地域と合同で行うのは全国でも珍しい。

75年に芸術専門学群が設置され、本学で芸術系教育が始まってから今年は、ちょうど30周年。TX開通の年でもあり、市と合同で記念事業を行うことによって教員、学生にとどまらず広く一般の市民も参加できるようにする。

実行委員長を務める玉川信一教授（人間総合）は、「大学が法人化され、芸術分野でも研究成果を外に向かって発信していく必要がある。市と協力し多くの市民が参加すれば、研究の発表の場も得られ、事業を一層充実させることができる」と話す。

国安孝昌・助教授（人間総合）の「竜神の塔」を見る市民（つくば市吾妻の中央公園で）

今回のイベントの目玉は、茨城県つくば美術館（つくば市吾妻）やアルスホール（同）などの会場を巡るスタンプラリーだ。各会場で色違いのスタンプを3色集めると、裏に作品が印刷されたポストカード3枚がもらえる。購入すれば、一枚100円程度だが、今回は無料だ。この企画には多くの本学の芸術系の学生、院生が携わっている。

芸術系教員・職員ら29人が出展する作品展も、中央公園や市内の美術館など至る所で催される。芸術系組織を挙げて取り組む作品展には絵画やモニュメント、彫刻、書など様々な作品が一度に展示される。玉川教授は、「これほど多くの種類、質の高い作品がそろうことは滅多になく、芸術に触れる絶好の機会」と話す。

今年の9月にも「秋のStyle Tsukuba つくば百景・百の美術館」が計画されている。こちらは、シンポジウムなど学術的要素を強く打ち出したイベントになる。

文部科学大臣表彰科学技術賞
赤木教授が第1回受賞
次世代の最先端を担う

赤木和夫教授

科学技術に関する研究開発を行い、顕著な成果を収めた研究者を顕彰する文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門で、赤木和夫教授（数理物質）が受賞した。4月20日、虎ノ門パストラル（東京・港区）で表彰式が行われた。

この賞は、科学技術功労者、研究功績者などの表彰制度を一新して、本年度から新たに設置されたもの。5部門の内、研究部門では赤木教授を含む31件の受賞が決まった。

赤木教授の受賞研究は、白川英樹名誉教授との共同研究を発展させた「液晶を用いた高機能性共役系高分子の合成と性質に関する研究」。不斉液晶反応場で特異的らせん構造を持つ高分子を世界で初めて合成し、らせんの向きを自在に制御できるという独創的で汎用性の高い開発が評価された。高分子と液晶の新しい融合領域も切り開いた。この成果によって、テレビなどの液晶ディスプレイをより薄型にし、半分のエネルギーで映し出せるようにするなど、科学技術の進展に寄与することが期待される。

赤木教授は「高分子と液晶の両方をやっている研究者はなく、暗中模索で何度も実験を続けた。今後も機能性高分子の新たな可能性を探っていきたい」と意気込んでいる。

原点 GEN-TEN
タンパク質に注目して脳研究
学生時代の自由な雰囲気を

石狩川の河口近く、複雑に曲がりくねったクリークの中で足の付け根まで伸びた長靴を履き、水際を半円形のタモで盛んに掻き回している麦藁帽子の若い男がひとり。住み慣れた九州から北大の大学院生として甲殻類（エビ・カニ類）の脳の研究に胸を躍らせ、札幌へ移った30年前の私の姿である。当時は、一掻きで体長5―6センチほどのエビが一塊になるほど採れ、北海道に残された大自然の豊かさを肌で感じたものである。

電子顕微鏡で見た細胞構造の精緻さに自然の美を感じて、エビの神経細胞の構造観察が大学院時代の私の「研究テーマになった」と言うか、「研究テーマにした」と能動的な言い回しをしたほうがより正確な気がする。一院生が自分でやってみたいと考えたことを、ほとんどそのまま実行できるような環境がそこにあった。

つまり、自己解決型（放ったらかし？）環境であるが、この現実は私にとってみれば、この上もなく幸せな状況であった。

「自分の思うままに生きて行きたい」と考えるのは、人間の本能である。各自が自由にこころに抱く興味の対象それ自体、その人の人格や個性の表現であり、分野を問わず研究の方向づけに本質的に影響する。

時が流れ、研究の場が理学から医学へ、研究対象もエビからほ乳類へと進化（？）したが、感性認知脳科学専攻のシステム脳科学分野で7人の院生と一緒に神経情報物質の興奮性アミノ酸を輸送するタンパク質について、ラットやマウスの脳の研究を続けている。

また、21世紀COE拠点形成プログラムでは人の「感性の発達」という異分野横断的研究テーマを掲げ、脳の発達に与える生育環境の影響について、このタンパク質に注目した研究を始めている。

法人化後の大学がどのようなグランドプランに沿って生きて行くのかが問われる激動の時代に入り、外部からの資金獲得が研究遂行の必須条件となりつつある。この厳しい状況の中、私の研究室は高額な研究資金を毎年連続して獲得するようないわゆるビッグラボの環境からはほど遠いが、院生時代に私が体験した自由な雰囲気の教育環境をいかにして維持するのか、そしてそこで育まれたみずみずしい脳が生み出す奔放な着想をいかにして具体化するのか、硬くなり始めた脳をひねり回しながら院生と対話する私がいる。

久野節二

ひさの・せつじ 人間総合科学研究科教授。感性認知脳科学専攻長。物質輸送システムによる情動、ホルモン分泌の神経調節機構を研究している。

「天上大風」邦楽、狂言、華道・・・・
伝統文化で魅せる

毎年春と秋に行われる伝統文化系サークルによる合同企画「天上大風」が4月17日、開学記念館で開催された。当日は暖かく、雲ひとつ無い天候に恵まれた。

8回目となる今回は、前回と同じ7団体が参加。学生や市民など約85人の観客は会場中央に設置されたベンチに腰掛け、無料でふるまわれたお茶や1串10円の団子を片手にステージで行われる三味線、尺八など邦楽の演奏や狂言、歌留多の実演を楽しんだ。

会場には華道部や書道部による展示のほか、各団体の体験コーナーが設置され、興味を持つ新入生で賑わった。

イベントの終わりにはビンゴ大会が開かれ、当選者にはそれぞれのサークルが用意した景品の贈られた。フィナーレには津軽三味線無絃塾、ときめき太鼓塾、邦楽部がカーペンターズの「トップ・オブ・ザ・ワールド」などを合奏、閉会に花を添えた。

実行委員長の坂田恵子さん（図情2年）は「好天に恵まれ、たくさんの人が訪れてくれた」と話した。

秋にむけては「参加団体を増やし、多くの人が参加するイベントにしたい」と話した。

合奏する邦楽3団体（開学記念館で）

第1回高校生のためのアートライター大賞
芸術学専攻が制定

高校生の芸術教育を向上させようと、第1回「高校生のためのアートライター大賞」が人間総合科学研究科の主催で催される。9月12日まで公募し、大賞3人、優秀賞20人を選ぶ。選考委員は美術雑誌の編集長や美術教育の専門家、同研究科の五十殿利治教授ら5人。

これは芸術30周年記念事業の一つとして行われる「芸術環境形成支援のためのアート・ジャーナリスト養成プロジェクト」。作品は自身の体験に基づき、芸術の素晴しさを2000字以内でつづって提出する。

直江俊雄講師（人間総合）は「大学進学のための予備校化した高校での芸術教育は空白化している。その問題を解決したい」と語る。

ホームページ http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~aes/

私の一冊

文学研究の力と魅力
狂気について 他二十二編
渡辺一夫評論選

学生さんには金がない。だから私が傾倒しているエドワード・W・サイードの『オリエンタリズム』（平凡社、上下巻で合計3263円）や『文化と帝国主義』（みすず書房、上下巻で合計9345円）を紹介しても買えないだろう。だから安くて滋養たっぷりの本書をお勧めする。税込み570円、327ページ（付記を参照）。これなら昼飯一回分ちょっとだ。

フランス文学など役に立たないから無縁だと思いこんでいる人でも、これくらいの金は使いなさい。ノーベル賞作家・大江健三郎の師匠の本だから、読めば頭が少しはよくなるのだから（と自分に言い聞かせる）。

まずは本書第三部の目次に目を通してほしい。「文法学者も戦争を呪詛し得ることについて」。文法学者も、文学研究者も、世をはかなんで昼寝をしているわけではないのである。あるいは「寛容は自らを守るために不寛容になるべきか」。このエッセイの中で、稀代のフランス文学者渡辺は、都留重人著『学問の自由を求めて』から二人のアメリカ人最高裁判事の言葉を引用している。その一人、オリヴァー・ウェンデル・ホームズが1929年にロジカ・シュウィンマー事件という裁判の判決文中に書いた言葉「我々と同じ意見を持っている者のための思想の自由ではなしに、我々の憎む思想のためにも自由を与えることが大事である」を渡辺は感動を込めて引用している（209ページ）。今もなお、いや今だからこそ、このアメリカ人の言葉が貴重に感じられるのは悲しいことだ。

さて、奇特にも文化・文学研究を専攻する予定の学生は、大江と清水徹が厳選した本書のすべてのエッセイを熟読し、伝統的な文学研究の圧倒的な力と魅力の一端を感じ取ってほしい。そしてこれは私自身の課題でもあるのだが―この大学者の学問の限界をも。

（付記）この値段は私が持っている1993年10月18日発行の第一刷のもの。現在、Amazon.co.jpでは753円。古本なら270円から出品されているが送料が高い。ちなみに税込581円の値段を付けているbk1は「現在お取り扱いができません」。大手オンライン書店、猛省すべし。（岩波文庫）

斎藤一

（人文社会・助手）

卒業生 さまざまに参加

公式キャラクター・キッコロと（地球市民村で）

人・モノ・情報の交流が地球規模で活性化された20世紀。巨大化した人類の活動は、地球環境に危機をもたらしつつある。

3月25日から始まった愛・地球博は、「自然の叡智」をテーマに自然と人間の共生を目指す。地球規模の交流を体感する長久手会場と自然環境の保全に重点を置いた瀬戸会場。長久手会場には万博史上初の市民参加型パビリオンも設けられ、政府や企業ばかりでなく、ボランティア団体なども参加している。

本学関係者も万博に参加している。現役の大学教授から、卒業生、学生などさまざまだ。万博に展示した研究内容や準備段階の苦労話などを紹介する。

なお、本紙は、展覧会を「展示」とし、展示会場を「パビリオン」と呼ぶことで統一した。

（本紙・清原碧＝社会学類、平野奈央＝比較文化学類、石川瀬里＝国際総合学類、野田伊織＝工学システム学類）

研究協力

ロボットスーツ HAL

ロボットをデモ運用

ロボットスーツ「HAL」の機能が体感できる

モリゾー・キッコロメッセ（長久手会場）を会場に、6月9日から19日までのロボット週間、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が、プロトタイプロボット展を開催する。「2020年・人とロボットが暮らす街」を想定したもので、65種類のプロトタイプロボットが展示・デモ運用される。山海嘉之教授（システム）は、ロボットスーツ「HAL」を、医療・福祉ロボットとして出展する。「次世代ロボットプロジェクト」の一環としてNEDOが公募し、採択された。

山海教授は、デザインが異なる「HAL」2体を出展する。1体を展示している間、もう一体をリポーターが装着してデモ運用を行う。会場には、アーム型の「HAL」も出展され、一般の人も「HAL」の機能を体感できるという。

「HAL」は、体に装着して、筋力を補強するロボットスーツ。筋力が衰えた高齢者や障害がある人への利用が期待されている。

まず皮膚に直接貼り付けた表面筋電位センサーで、脳からの、運動の信号を読み取る。信号は、背中のバックパックに内蔵されたノート型パソコンに送られ、フレームの関節部に取り付けられたアクチュエーターが、関節の動作を助ける仕組みになっている。

出展する2体のうち1体が、5月6日に完成した。これまでは下半身のみだったが、万博出展に合わせて、上肢部分も開発された。完成したばかりの「HAL」は、10日に愛知県で行われる記者発表でお披露目される。

万博出展後は、8月をめどに、家庭での利用も予定されているという。

マンモスプロジェクト

日露をつなぐ架け橋

巨大な角に歓声が上がった（マンモスラボで）

愛・地球博のメーンテーマ「自然の叡智」を具体化しようと始められたのが、一番の呼び物「マンモスプロジェクト」だ。古代の環境と生命の謎を解き明かし、絶滅動物の研究や保護プロセスに応用する。02年にロシア連邦サハ共和国で発見されたマンモスを持ち出せたのは「陰の立て役者」として渡邉和男教授（生命環境）の存在があったればこそだった。

冷凍マンモスはロシアの国有財産で、原則的に国外への持ち出しは禁止されている。日本に運んできても、病原菌の蔓延防止、クローン実験の倫理的取締りなど国際法上の制約も多い。日露が協力して研究を進めるためには、法整備が必要だった。

渡邉教授は、植物の遺伝子利用と保全に取り組む国際機関、国際植物遺伝資源研究所（IPGRI）の名誉顧問として活躍している。経験上、検疫や遺伝子実験などに関する造詣が深く、研究材料資源として、マンモスを日本に運ぶための法解釈を担当した。2年間の交渉を経て、両国間の協力体制を整えた。渡邉教授らの「陰の活躍」によって、国家間の調印にこぎつけ、万博の目玉「マンモス」が日本に運ばれることになったのだ。

展示されている「ユカギルマンモス」は、推定40歳から45歳くらいのオス、約1万8千年前に生息していたとされる。肩までの高さは約2・8メートル、重量は約4トンから5トン程度もある。

長久手会場の博覧会協会パビリオン「グローバルハウス」に隣接する冷凍展示室に、頭部、左前肢、骨格とその他の発見物がまとめて展示されている。

未知の部分が多いマンモスの冷凍標本。渡邉教授は今後、古代植物の研究に取り組んでいくという。サハ共和国から取り寄せた永久凍土と、マンモスの胃袋から検出される物質を分析し、古代にどのような植物が繁殖していたのか、マンモスは何を食べていたのかなどを探る。さらなる研究のため、今夏、サハ共和国を訪れ、永久凍土のサンプルを取ってくる予定だ。

市民参加

瀬戸日本館ギャラリー

自然との共存を表現

現代美術家の意欲作を展示する瀬戸日本館ギャラリー3階に置かれた巨大作品群が訪れた観客を圧倒している。「光と風の庭――群・棲」と題されたインスタレーション展。制作者は1988年に本学芸術研究科を修了した西本剛己さんだ。作間敏宏さんとのコラボレーションで、西本さんは3作品を出品した。

日本で巨大作品を作る芸術家は極めて珍しい。制作費用が高くつくにもかかわらず、商品としての需要がほとんど見込めないからだ。作家としての希少性と作品の独創性を評価され、西本さんに白羽の矢が立った。

西本さんにとって「棲（せい）」は、人や生き物の心の住みかを意味する。フロアに足を踏み入れるとすぐに、高さ約3メートル、横12メートルの幅をもって積み上げられた木材群が目に飛び込んでくる。森の再生を表現する「呼吸作用」と題された作品だ。材料は瀬戸市周辺の壊された民家から集めた約2500本の柱。乾燥させた瀬戸の葉を柱につけて積み上げた。

作品に触れようと、手を伸ばす観覧者がたくさんいた

「共振」という作品は、高さ約3メートル、幅約9メートル、重さ約3トンの巨大なアクリルと34個の振り子を使って、凍り付いた時間を表現している。

「螺旋（らせん）」は動物をかたどった瀬戸の素焼き陶器11種類、約1200体を円形に並べた作品だ。

どれも瀬戸市内から集めた廃材をできるだけ再利用して制作されている。「人間の生活自体が自然を傷つける。廃材などを多く用い、人間と自然の共生の道を模索した」。そんな作家の思いが凝縮したフロアだ。

作品展は最終日の9月25日まで開催される。最終入館時間は午後4時40分。

準備期間

幻の「海上の森会場」

「幻の会場」となってしまった会場候補地がある。愛知県瀬戸市にある広さ約540ヘクタールの海上（かいしょ）の森だ。横張真教授（システム）は97年から5年間、海上の森の里山開発に携わった。里山の生態を調査し、人工的造成を最小限に抑える計画を考案してきた。

海上の森は、90年に万博予定地として設定された。約150ヘクタールを造成する予定で、周辺は「自然との共生」をテーマに、学術研究都市と森林地域に分けて整備する予定だった。

起伏の多い森の中をお年寄りや子ども、障害者でも散策できるように空中回廊を設計した。横張教授は「トンネルや谷、橋をうまく利用して鳥や虫、モグラの視点を演出したかった」と話す。だがこの計画は白紙に戻ってしまった。

環境省の調べによると、海上の森には、絶滅危惧種のサギソウやシデコブシが生息しているという。そのため、県内の自然保護団体などから「生態系を破壊する。自然との共生というテーマにそぐわない」などの抗議を受けた。

99年5月に野鳥の会の会員が、絶滅が心配されるオオタカの営巣を発見した。これを受け、2000年の愛知万博検討会議で主会場を海上の森と隣接する愛知青年公園（長久手町）に移し、海上の森会場を10分の1に縮小することが決定した。

現在は、外国館や企業、市民参加型のパビリオンが設置される長久手会場（旧青年公園会場）がメーンだ。海上の森の造成案を応用して、外国館と企業パビリオンを結ぶ回廊が設置された。海上の森は市民パビリオン、里山の散策が楽しめる瀬戸会場として利用されている。

海上の森は、日の目を見ない会場となってしまった。しかし、横張教授は「市民団体などからの自然保護活動をきっかけに、政府や企業だけでなく一般の人も万博に参加できる体制が生まれた」と話している。

愛・地球博 教員・学生

地球市民村

史上初の市民参加型

人と文化の交流を目指し、万博史上初めて、自治体や企業以外の、市民参加型パビリオンが設置された。長久手会場にある地球市民村だ。平和や国際貢献をテーマとして、市民団体から参加を募り、展示をしている。1982年に環境科学研究科を修了した阿部治・立教大教授は、同企画に参加する団体の審査アドバイザーを務めた。

阿部教授は、03年から環境や人権、平和問題などの教育開発に取り組む非営利組織（NPO）「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD－J）の代表理事を務める。専門は環境教育学。地球市民村を通し、「私たちの未来にとって、環境破壊などの社会問題に持続的に取り組むことが、どれほど大切かを伝えたい」と目標を語る。

地球市民村は、国内外のNPOや非政府組織（NGO）併せて約80団体が「自然・環境」「国際交流・協力」「持続可能性」の3分野に分けて参加型の展示を行っている。阿部教授は、参加を希望するNGOの選定を行った。「海外の組織と提携していて、参加型の展示を企画する意欲のある団体を選んだ」と話す。

開催初日から最終日まで、2－5団体が1つのユニットを組み、1カ月ごとに展示を行う。4月は、国境なき医師団日本支部が難民キャンプを再現した。国際イルカ・クジラ教育リサーチセンターはイルカの粘土模型を展示し、環境問題の深刻さを伝えている。

茶葉作りを通して、自然を感じる

学生

平和を呼びかける

「一人でも多くの人に、平和について考えて欲しい」。長崎出身で、高校時代から署名活動などを通して平和の意義を訴えてきた被爆三世の草野史興さん（比文3年）のスピーチが、パビリオンにこだました。

開催初日の3月25日、長久手会場の地球市民村。オープニングイベントで、約450人の聴衆を前に核廃絶への思いを訴えた。

自然エネルギーを紹介するNGOも

草野さんが参加したのは「世界へのメッセージ－10代から世界へ 平和のために」と題されたイベントだ。国内外の平和活動に従事する約100の市民団体が主催し、世界各国から集まった若者が、自分たちが取り組んだ活動を報告した。草野さんは、高校時代に取り組んだ核廃絶を訴える「高校生一万人署名活動」について語り、「署名してくれた大勢の人に励まされた」と話した。

署名活動は、34都道府県から集まった40人の高校生に引き継がれている。集められた署名は今年の夏、国連のジュネーブ軍縮会議に提出する予定だ。

昨年11月、国際協力機構（JICA）は、平和と国際協力をテーマに全国で「ピース・トーク・マラソン」と題するシンポジウムを開いた。長崎大会でJICAの親善大使と、核兵器の廃絶を目指す「高校生1万人署名活動」を行う高校生が出会い、万博での企画が持ち上がった。署名活動のOBとして、草野さんに講演の依頼が舞い込んだ。

草野さんは、「今年は被爆60周年の節目。戦争を知らない世代だからこそ、平和の大切さを意識したい」と話した。

サークル

日本の伝統音楽を紹介

井坂流津軽三味線倶楽部無絃塾が6月7日、愛知万博で演奏する。長久手会場のEXPOドームで卒業生を含む40人のメンバーが参加する。

演奏は、日本の伝統音楽などを紹介するイベント「ジャパンウィーク」初日の「日本音楽歴史絵巻」で行われる。「奈良－平安」「鎌倉－室町」「江戸」「現代」という4つの時代に分けて、能楽や歌舞伎囃子などが演奏され、「現代」は演奏者全員で総セッションを行う。

無絃塾は江戸時代を担当し、津軽三味線全国チャンピオンの福居一大・典美姉弟と共演する。曲目は、女性が太鼓踊りを担当し、男性が三味線を奏でる「おやまばやし」、「津軽三味線大合奏」の2曲だ。

無絃塾は全国で年間100回を超える公演を続けている。大学生が演じる若さと華やかな太鼓踊りが評判となって、万博に参加することになった。

愛知万博へ向けて週3回の練習に加え、週1回の朝練習もこなす。自主的な練習は深夜まで及ぶこともしばしば。人数が多く太鼓の動きと三味線を合わせるのが難しいという。

無絃塾の代表者、楠須希さん（資源3年）は「まさか出られるとは思わなかった。悔いのないよう精一杯やりたい」と抱負を語る。

HELLO! 先端科学

宇宙シミュレータ

望遠鏡で解明不能の謎 天体誕生を計算で再現

宇宙の年齢は140億歳。すべての天体の先祖となる最初の星が宇宙にあらわれたのは、50万歳から1億歳の間。10億歳で太陽系のある天の川銀河が誕生し、100億歳のころに太陽系ができた。

最初の星、第一世代天体がどのようにしてできたのかは今も謎だ。梅村雅之教授（数理物質）を中心とする計算科学研究センターのグループが、この興味ある問題に取り組んでいる。

鉄や炭素など、地球や生物を構成する重い元素は、恒星が活動する中で生まれる。つまり第一世代天体は全ての物質、生命の起源だ。

天の川銀河のとなりにあるアンドロメダ銀河まで230万光年の距離があり、いま、私たちが見ているのは230万年前の天体ということになる。遠くを見るほど過去の天体が観測できるのだが、世界最大の口径を持つすばる望遠鏡でも、130億光年先までしか見えない。宇宙ができて1億年に誕生した第一世代天体は解明できないということだ。

梅村教授は第一世代天体の誕生を、計算で再現しようと、宇宙シミュレータというコンピュータの開発に取り組んでいる。

この宇宙シミュレータは最初の星を解明するところから、FIRSTと名づけられた。梅村教授は、材料となる物質と光との相互作用、そして物質を結びつける重力を計算する。物質の密度が正確にわかっている誕生から50万年後の宇宙を出発点に、望遠鏡では解明できない謎に挑む。

計算量が最も多いのは重力だ。これまでは、重力計算専用機を、ほかの計算に使う汎用機に接続していた。

計算の量が増えればデータを交換する効率が悪くなり、十分な性能が出ない。FIRSTは専用機を小型化し、汎用機に組み込むことで対応した。

FIRSTはコンピュータを格納した16基のクラスタからなる。クラスタ1基につき、汎用機と専用機に分けられるコンピュータが16台組み込まれている。これを16基製作する。現在は1号機が完成した段階だ。

問題は、専用機を組み込むときに発生する熱処理だ。16台が密集すれば、熱の温度は電気ストーブ並になり、計算する前に故障してしまう。

この問題は、専用機の天板にヒートシンクという部品を使用し、絶えず空気を送ることによって解決した。

クラスタ1基に専用機が16台。クラスタがすべて完成すれば合計256台になる。重力演算は秒間35兆回、汎用機部分も秒間3・5兆回だ。宇宙物理学分野で国内最速だった国立天文台のものと比べ、専用機で20倍、汎用機でも6倍優れている。

FIRSTの完成は来年夏。およそ半年で最初の結果が出る。「これによって、長年の宇宙の謎が解明されるはず」と梅村教授は語る。人類の手で宇宙をシミュレートする時が、すぐそこまで迫っている。

（本紙・菊地尭＝図書館情報専門学群）

最初の星の誕生を計算するクラスタ（計算科学研究センターで）

卒業生からの手紙

職業はCLOWN 大棟耕助さん

大学時代は本当に充実した毎日で、授業は、卒業単位の5割増以上受け、陸上競技では、インターカレッジにも出場できました。早朝6時から1時限目が始まるまで毎日アルバイトをし、余った時間を、多くの遊びに費やしました。卒業時には、多くの友人と同じように、教師や研究者の道を考えましたが、民間の企業に憧れ、1991年に卒業した私は、地元大企業、鉄道会社で6年間働きました。

その後、自己責任の中で全力を出し切る環境を求め、周りに心配をかけましたが、起業しました。クラウン（道化師）と似顔絵師の育成・派遣を主軸に、会社は少しずつ、大きくなり、今では父親も役員として雇用しています。仕事の内容は、多岐にわたりますので、HPを見て下さい。（www.pleasure-p.co.jp）

一昨年、中古のビルを購入し、1階にはサーカス練習場と道化師の専門店、2階に合宿所、3階にダンスルーム、似顔絵師のアトリエ、ミュージアム、4階にはオフィスがあります。正社員は20人ほどいて、専属のアーティスト（道化師と似顔絵師）が50人ほどいます。この仕事は、芸術性を求めると収入がついていかない。営業に走ると、芸術的欲求が満たされない。彼らが安心して働く環境をつくることが私の仕事です。

今年、私の住む愛知県で、万博が行われています。私は、協会からの依頼で、グローバル・ループのソル・バン・バンというパレードをつくり、別のプロジェクトでは、多くの外国人アーティストを招へいしました。6月には外国人日本人合わせて、200人のクラウンで万博内をパレードします。そして、私自身もステージに立ちます。

最近では、病院の入院患者に対するクラウンの仕事も注目されてきています。欧米の病院では、当たり前に存在するケアリング・クラウンを、日本に導入し始めました。ある意味で私の会社の使命になっています。海外出張も頻繁にあり、そこで自らがショーをすると同時に、現地でアーティストのオーディションを行い、日本に招へいします。先日は、キューバに行ってきました。キューバのサーカス事情は決してよいものではありませんが、高い身体能力を持っているので、会社でアレンジしても良いかと思っています。

私の会社は、スタッフたちに、キャリアを積ませていくことで、会社の資質・財産が向上していきます。彼らは、めきめきとキャリアを積み、似顔絵師は、TVチャンピオン「似顔絵職人選手権」（テレビ東京）に5人のアーティストが出場し、優勝者もいます。全米選手権で1位を取ったアーティストも2人います。道化師は、世界大会で3人メダルを獲っています。

私の次なる夢は、サーカスです。今、国産のサーカスはわずか3つです。そこで、収容人数300人の小さなサーカステントを購入し、学校を中心に回りたいです。まだまだ、これからが楽しみです。ちなみに私は、職業欄にCLOWN（道化師）と書きます。

（平成2年度体育専門学群卒）

茗渓山脈　体育・スポーツ列伝

アメフト

歴史にない高師の初試合
岡部平太がシカゴで学ぶ

■幻のアメフト試合

1927年4月、東京の成蹊学園グランドで、東京高等師範学校アメリカンフットボール研究会が日本で初めて試合を行った。

だが、この試合、日本のアメフト史には記録されていない。34年に立教大のポール・ラッシュ教授らが「東京学生米式蹴球連盟」を設立し、明治神宮陸上競技場で行った公式試合を日本アメフト史の出発点としている。

■先駆者・岡部平太

当時、高師にアメフトを紹介しようと試みたのは、「選手宣誓」の発案者として知られる岡部平太だった。岡部は13年に高師に入学し、柔道の創始者・嘉納治五郎のもとで、柔道に打ち込んだ。約1年で白帯から4段に、異例の昇格をやってのけた。

高師卒業後、シカゴ大に留学し、そこでアメフトを体験した。師事したコーチはアメフト界不朽の名将と呼ばれるエイモス・アロンゾ・スタッグだった。岡部は米国学生の間で人気の高いアメフトとスタッグの人間性に惹かれ、無我夢中で練習したという。

ルールを知らず、練習ではタックルしてはいけない相手に得意とする柔道の大外刈りを何度も仕掛け、相手を怒らせることもあった。身長163センチと小柄な日本人は地元の新聞にも取り上げられた。

アメリカンフットボール部の松本剛監督（人間総合・助教授）は「シカゴ大は当時米国のトップチームの一つ。そこに乗り込んでプレーしたのはすごい」と話す。

20年に帰国し、高師でアメフトを実践したが、砂利のグラウンドではタックルも出来なかった。

■研究会の設立

岡部が高師を去った後、再びアメフトを甦らせたのは、高師のラグビー部員を中心に結成されたアメリカンフットボール研究会だった。アメフトの名選手・グランジを描いた映画に刺激を受けたという。岡部ら米国でのアメフト経験者の後援を受け、英文のルールブックを翻訳。練習の順序や方法、服装上の注意、戦術の解説までを記した入門書「アメリカンフットボール」を27年に発行し、アメフトを広めようとした。その中に、成蹊学園で行われた紅白試合が大成功に終わったという記述もある。

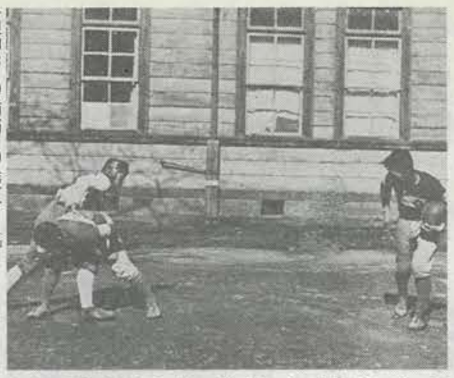
だが、当時のアメフトはここで終っている。『茗渓ラグビーの五十年』は秘話として「ラグビーをやる上でアメフトを研究することはプラスになる」と書き残している。時期限定でアメフトに全力を尽くした学生たちは新たな気持ちでラグビーに戻っていってしまった。

松本監督は「各種スポーツの基礎づくりの時代で、アメフトは押しつぶされたのではないか」と推測する。

■受け継がれた精神

本学に正式にアメリカンフットボール部が発足したのは76年、高師で最初の試合が行われてから約50年後のことだ。昨年12月には関東学生アメリカンフットボールの1部に昇格、一昨年の2部降格から返り咲いた。毎年7月には、アメフト発祥の地・米国のプリンストン大学で練習し、本場のアメフトに挑戦する。本学の先駆者たちは記憶の底に埋もれたが、チャレンジ精神は今に受け継がれている。

（本紙・城下めい子＝日本語・日本文化学類）



高師での練習の様子（『アメリカンフットボール』より）

『アメリカンフットボール』の中で紹介されているアメフトの正式の服装

柔道　体重別選手権

秋本、決勝で涙のむ
福見らアジア選手権に

秋本啓之

福見友子

今年9月にカイロで開催される柔道の世界選手権代表選手最終選考会を兼ねた第38回全日本選抜体重別選手権が4月3日に、第28回全日本女子選抜体重別選手権が10日に行われた。

男子66キロ級で優勝が期待された本学の秋本啓之（体育2年）は、決勝でアテネ五輪金メダリストの内芝正人（旭化成）に敗れた。12月の福岡国際大会で優勝した女子48キロ級の福見友子（体育2年）も準決勝で谷亮子（トヨタ自動車）に敗れた。OGでアテネ五輪63キロ級金メダリストの谷本歩美（平成15年度体育専門学群卒）は決勝で上野順恵（三井住友海上）に敗れたが、実績が評価され世界選手権代表に選出された。OBの73キロ級の高松正裕（平成15年度体育専門学群卒）は、昨年に続き2連覇で代表に選出された。同じく小野卓志（平成16年度人間総合科学研究科卒）も初優勝し、代表入りした。

「優勝を狙っていく」。大会前、秋本はそう抱負を語ったが内芝の巧みな攻めの前に屈した。秋本はこれに先立つ、2月のフランス国際大会で優勝しており、けがなどで不調が続いた内芝との対戦に注目が集まっていた。

内芝との決戦は、秋本が右、内芝が左から組み、秋本が素早い巴投げを仕掛けたが、巧みに内芝にさばかれそのまま右手から腕挫十字固めをかけられわずか24秒で一本負けした。

福見は準決勝で谷亮子に内股すかしで一本負けを喫した。

5月14、15日にウズベキスタンで行われるアジア選手権代表には、本学から秋本、福見のほか女子無差別級の杉本美香（体育4年）が選出された。

バスケ　女子学生選抜

急追も鹿屋に届かず
集中力欠き弱点を露呈

昨年度のインカレベスト8が競い合う第22回日本女子学生選抜バスケットボール大会が4月22－24日、国立代々木競技場第二体育館（東京・渋谷区）で行われ、本学女子は準優勝に終わった。

シード校として参加した本学は二回戦から登場し、桜花学園大を57対52、準決勝で白鴎大を84対61で下し、決勝で鹿屋体育大と対戦したが、63対67で敗れ、優勝を逃した。

決勝戦はロースコアの展開となった。第1クォーター開始2分間、両チームとも得点できない。「13点分のシュートを外した」と内山治樹監督（人間総合・助教授）が激を飛ばした。鹿屋体育大に翻弄され、15点差をつけられた。

第2ピリオドに入り、本学はゾーンプレスに切り替え、反撃を試みた。しかし、シュートの決定率が悪く、鹿屋体育大にオフェンスリバウンドを押さえられ、反撃の機会を作れない。

第3クォーターで、持ち前のディフェンスがやっと機能してシュートに繋がり始めた。だが、開始7分で司令塔の加藤めぐみ（体育4年）がファウルアウトで退場。苦しい展開となった。

第4クォーターは、オールコートでマンツーマン・ディフェンスを仕掛けた。激しいプレスでボールを奪い、このクォーター24得点をあげた。これが功を奏し、4点差まで追い上げたが、前半の点差が響き、逆転はならなかった。

今大会は2月に始動したばかりの新チームの初戦。内山監督は「集中力がない。ディフェンスを頑張って相手がシュートを外しても、オフェンスリバウンドを取られては」と嘆いた。

5月12日から関東女子学生バスケットボール選手権大会が始まる。反省点を生かし、優勝を狙う。

体操　ユニバーシアード選考会

楠、代表まであと一歩
鉄棒、ゆかで痛恨の減点

3つの国際大会の選考会となる第38回世界体操競技選手権大会第2次選考会兼第23回ユニバーシアード大会日本代表決定競技会が5月4、5の両日、国立代々木第一体育館（東京・渋谷区）で開催された。本学の楠紘朗（体育4年）はユニバーシアード枠総合で107・025点を記録して7位に入賞したが、8月にトルコのイズミルで開かれるユニバーシアードの代表権を惜しくも逃した。女子は山脇佳奈（同3年）が総合66・450で8位だった。

ユニバーシアード代表枠は5つ。総合得点上位5名が選出されるが、楠は5位の選手と0・125点差だった。

初日、「手堅い演技ができた」と満足げに語る楠。決して調子は良くなかったが、あん馬で9・250、つり輪で8・800とミスなくこなした。跳馬の着地で座り込んでしまい、8・800と伸び悩んだが、平行棒で自慢の「後方屈伸2回宙返り降り」を決め、9・425を叩き出した。「こなせる選手もそれなりにいるD難度の技だが、楠ほど余裕を持って着地できる選手はそうそういない」と体操競技部の渡辺仁監督（人間総合・技術職員）も評価する。ここまで好調だったが「手がつってきた」。鉄棒、ゆかと積極的に攻めることができず、初日を6位で折り返した。

2日目も「安定感」のある演技が冴えた。あん馬、つり輪、跳馬、平行棒とミスなくこなし、コーチも「前半の安定感は抜群だった」と話した。だが「もっと攻めていけ」と檄を飛ばした。鉄棒で、楠はD難度の技を3連続で構成したが、ミスを恐れ、ひとつひとつの技を区切ってしまった。これが大きな減点となり、8・500止まり。ゆかでも、2連続宙返りするところを1回でやめ、8・425だった。

世界選手権、東アジア大会の最終選考会となるNHK杯への出場権は獲得した。楠は「次は強気で臨む」と、悔しさを押し殺した。

渡辺監督も「持ち前の力、ばねは活かせた。もっと大舞台を経験し、攻めていけるようになれば」と話している。

安定感を見せたつり輪（国立代々木第一体育館で）

記録ファイル

◆ハンドボール

関東学生春季リーグ

【男子】（4月16日－5月4日、日本大学八幡山総合アリーナなど）▽筑大22－23明大▽筑大27－22順大▽筑大28－19東海大▽筑大27－25中央大▽筑大28－28法政大▽筑大33－21国士大▽4位（6試合終了現在）

【女子】（4月17日－5月1日、日本体育大学健志台体育館など）▽筑大34－10茨城大▽筑大28－16日女体大▽筑大35－10東海大▽筑大34－25国士大▽筑大28－18日体大▽1位（5試合終了現在）

◆野球

首都大学春季リーグ（4月9日－5月1日、平塚球場など）▽筑大5－2獨協大▽筑大7－0獨協大▽筑大1－3日体大▽筑大0－4日体大▽筑大0－8東海大▽筑大4－7東海大▽5位（第4週終了現在）

春季関東リーグ

男女共に首位キープ

新戦力 期待上回る活躍

バレー

春期関東大学バレーボールリーグが始まった。男子バレーボール部は、5月6日現在4戦して全勝。女子も6戦して全勝、共に好調なスタートを切っている。

女子一部リーグは4月9日、駒沢体育館（東京・世田谷区）などを会場に開幕した。昨年の全日本インカレで4位に終わった悔しさをバネに守備力を強化。インターハイ優勝と、全日本ユースに選抜された経験を持つセンター水田祐未（体育1年）を即戦力に王座奪還を目指す。

女子バレー部の中西康巳監督（人間総合・講師）は「後半で追いつくねばり強いプレーができた。これからの課題はコンビネーション」と振り返る。

男子一部リーグは4月16日から専修大学生田校舎総合体育館などで始まった。同じく全勝の東海大をセット数で上回り、現在一位。トップで決勝リーグ進出を狙う。今年はレギュラーが全員2年生以上で、チーム力が安定している。昨年のエース・北島武の穴を埋めるため、セッター菅直哉（体育2年）が活躍する。「今年はバランス重視のチーム。その分だけ、菅の力があがった」と男子バレー部の都沢凡夫監督（人間総合・教授）は話している。

対青山学院大戦でスパイクを放つ三上彩（東京体育館で）

背泳の宮下 世界水泳へ

第81回日本選手権

自己新で標準記録突破

佐藤はユース欧州GPへ

水泳

今年7月にカナダのモントリオールで開催される第11回世界選手権大会の代表選手選考を兼ねた第81回日本選手権水泳競技大会が4月21日から24日の4日間、横浜国際プール（横浜市）で開催された。宮下純一（体育4年）は背泳ぎ100メートルで54秒90、50メートルで25秒79を記録。それぞれ自己ベストで2位入賞を果たした。日本水泳連盟の定める派遣標準記録を突破し、世界選手権と8月にトルコで開催される第23回ユニバーシアード大会の代表入りを決めた。

佐藤祐樹（同1年）は平泳ぎ200メートルで6位に入賞し、6月に開催されるユース・ヨーロッパグランプリサーキット2005大会の代表に選出された。

100メートル背泳ぎで宮下は前半から積極的に飛ばした。50メートルのターンをアテネ五輪金メダリスト、森田智己（セントラルスポーツ）と0秒07差の2位で折り返したが、ターン後の潜水中に打つバサロキックで体半分の差をつけられた。ラスト10メートルで追い上げたが、0秒54届かなかった。だが、派遣標準記録54秒95を突破した。

50メートルでは、スタートの入水時、手を重ねるのが遅れて水の抵抗を受け、出遅れた。その差が縮まらず、ここでも2位だった。50メートルでも派遣標準記録25秒90を突破した。

銀メダルを胸に手を上げて観衆に応える宮下（横浜国際プールで）

泳速に一段と磨き

宮下は五輪銅メダリスト、森田智己まであと一歩。確実に追いつき、追い越そうとしている。差は「スタートの反応とバサロだけ。泳速では宮下が上回る」と水泳部の白木孝尚コーチ（人間総合・技術職員）は分析する。「宮下はスタートの反応とバサロで遅れをとるが、泳速で挽回する。だが、ターンでまた離される」。勝てない理由だ。宮下も7、8メートルまでバサロで潜れるようになったが、森田は10メートル潜る。今回もバサロが明暗を分けた。

50メートルでは、ターンがない分、泳速が生きる。183センチの長身に加え、上半身全てを使い切れる技術力が「日本一長い」ストロークを生み出し、泳速につながる。さらに「冬場のW杯を通して泳速に磨きがかかった」ことが、100メートルの前半で、日本記録を0秒23上回るハイペースを可能にした。泳速を武器に「日本新で森田に勝つ」狙いだったが、スタートの失敗が響いた。

悔いの残る結果だが、念願の日本代表入りだ。昨年の選手権では3位。派遣標準記録にも0秒51届かなかった。「万年3位と言われ続けた雪辱は晴らした」

選手権前「日本に森田の敵はいない」と下馬評が立った。「次は日本記録。年下の智己に負けてられない」と世界選手権に闘志をむき出しにする。（本紙・沖浦裕明＝比較文化学類）

東学大に辛勝

サッカー

関東大学サッカーリーグ第6節の対東京学芸大戦が5月4日、江戸川陸上競技場（東京・江戸川区）で行われた。蹴球部は2－1で東学大を下し、前節の3位から2位に浮上した。

前半8分、ゴール前で相手選手がクリアしたボールをFW平山相太（体育2年）が左足で決めて先制。だがその後は攻守ともに安定せず、前半終了間際の44分には、コーナーキックから失点を許した。

後半15分、再度平山が相手のクリアミスから、追加点を挙げ、結局、これが決勝ゴールとなった。

第6節終了時点で、平山が7得点、MF藤本淳吾（同4年）が7アシストでそれぞれリーグ首位。同リーグは、6月5日に前期を折り返す。

試合結果は以下の通り。

▽筑大2－1日大▽筑大7－0東農大▽筑大2－2法大▽筑大2－3順大▽筑大4－0亜大▽筑大2－1東学大

開幕戦でコーナーキックを放つ藤本（西が丘サッカー場で、提供＝M.Naito）

スポーツの顔

日本一のスタミナ武器に

北島超えて北京五輪へ

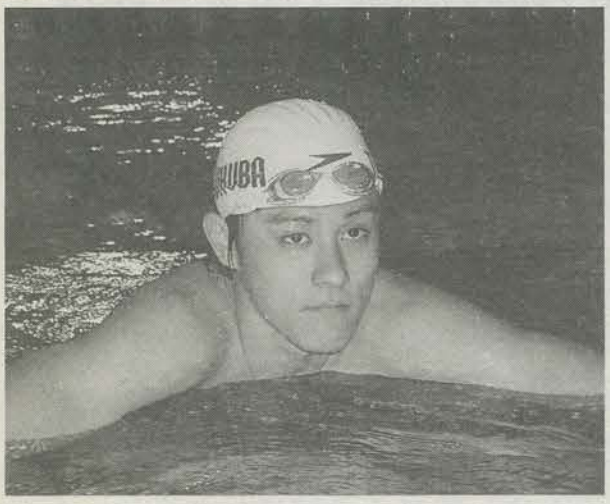
佐藤祐樹（体育1年）

ポスト北島康介（コカ・コーラ）の呼び声が高いホープが、いま、あがき苦しんでいる。平泳ぎの佐藤祐樹（体育1年）だ。

高校時代、「同世代には負ける気がしない」と敵なしだった。得意の200メートル平泳ぎではインターハイ、国体で3連覇、ジュニア・オリンピックを制し、高校3年の1月には世界中からU－18の強豪が競うジュニア・パンパシフィックに出場、2分14秒41で優勝した。

そんな強い佐藤が日本選手権では勝てない。昨年は5位、今年は2分14秒71で、6位入賞止まりだった。「今年こそ12秒台を出して自己ベスト更新。2位に食い込んで世界選手権に行く」と意気込んでいた。2位とは弱気だが、「1位は絶対に北島さん。まだ勝てる気がしない」からだそうだ。

佐藤の読みと違って、日本選手権を制したのは今村元気（ムラサキスポーツ）だった。記録はアテネ五輪5位入賞に相当する2分11秒70。北島以外にも強敵はいた。日本の選手層の厚さを思い知った。



佐藤の武器は「日本一のスタミナ」と水泳部の白木孝尚コーチ（人間総合・技術職員）は折り紙をつける。「疲れ知らず」の泳ぎは、群馬県にある実家が経営するスイミングスクールで養われた。幼い頃から泳ぐことが生活の一部になっており「水中で疲れたことはない」。200メートルを最初から全力で泳いでもバテない。余力すら感じさせる。

問題はスピード。佐藤自身、スピード不足に悩んできた。高校2年の国体で出した2分13秒60が自己ベストだが、以来、更新出来ないままだ。

白木コーチは筋力不足と診断する。身長187センチの恵まれた体だが、体重は70キロしかない。これでは、水を捕らえる力が弱く、スピードが出ないのだ。「ラストまで落ちないが、ハイスピードレースにはついて行けない」

スピード不足は泳ぎに焦りを生み、それが悪循環を生む。速く泳ごうとストローク数を増やしてしまうのだ。平泳ぎのトップスピードは体を伸ばした時に出る。ストロークを増やすと、体を伸ばす時間が減り、逆にタイムは遅くなる。佐藤も頭では分かっているが、「レースだと熱くなってしまうから」と苦笑いするほかない。

本学に進学して、腹筋、背筋といった体幹部分の強化に励んでいる。スタミナ自慢の佐藤に筋力がつけば、スピードは自ずと向上する。「いま、筋力が付いてきたなという実感がある。3年後の北京五輪では、北島さんの記録に確実に迫りますよ」と強気で挑む。

北島康介を超えて世界一に。筋トレに明け暮れる佐藤にその可能性をみた。

（本紙・沖浦裕明＝比較文化学類）

記録ファイル

◆陸上

第21回静岡国際陸上競技大会（5月3日、静岡県草薙運動場陸上競技場）

［男子］▽400メートルハードル＝2位・成迫健児（体育3年）49秒40▽やり投げ＝3位・荒井謙（体育研究科2年）70メートル30

［女子］▽円盤投げ1キロ＝4位・林田真那美（体育2年）47メートル55▽砲丸投げ4キロ＝4位・細川麻（同3年）14メートル27▽同＝5位・美濃部貴衣（同2年）14メートル22

学内のネットワーク管理

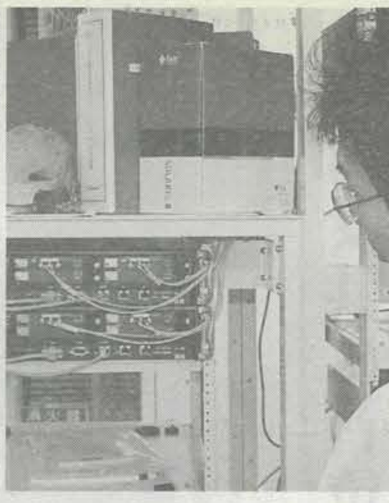
ズームアップ

ポートスキャンが狙う 問われる利用者の意識

年末年始にかけて、学内のパソコンからインターネットに接続しにくくなるという事態が発生した。学内のネットワークを管理している学術情報メディアセンターによると、三が日を除いて、1月に3回、2月4回、3月2回、4月3回、同じようなことがあった。土日を中心に時間は数分間から数時間とまちまちだが、インターネットに接続しにくくなったのだ。

■原因

同センターは主な原因を「外部からの攻撃」とみている。学情のネットワーク・セキュリティを担当している佐藤聡講師（システム）によれば、「学外から短時間のうちに集中的なアクセスがあった」という。学外の同一の端末から1秒間に学内の約40カ所のパソコンに数分間、ランダムに接続し、それが約2時間にわたって数回繰り返される。ポートスキャンと呼ばれる悪質ないたずらで、学内の脆弱なパソコンを探しているのだという。



学情にあるファイアウォールを果たすコンピュータ。ウィルスの侵入を防ぐ

■利用者の問題

現在、学内には71個の無線LANのアクセスポイントがある。学外から持ち込んだパソコンを大学内のサーバやインターネットに接続させることができるものだ。セキュリティ対策の不完全なパソコンや汚染されたパソコンが持ち込まれる可能性もある。それを学内のサーバに接続すると、外部からの侵入経路にされることもある。

03年には、MSブラストというコンピュータウィルスに感染したノートパソコンから学内のパソコン540台が感染した。ネットワークに詳しい登大遊さん（情報3年）は「各研究室の端末もセキュリティ面で格差がある。1人でも意識が低いと大勢に迷惑をかけることになる」と警鐘を鳴らす。

■メンテナンス

本学のインターネットのユーザーは学生、教職員合わせて約2万人。01年度に10億円をかけて新しいシステムを構築した。当時としては最先端のものだった。現在は佐藤講師と3人の技術職員が管理に当たっている。

登さんは、「この規模のシステムをたった3人で管理するのは大変」と指摘する。大企業の多くは、業者に委託して24時間体制で管理しているという。しかし大学は教育・研究機関であり「それだけ投資する必要があるのか、全学的な議論が必要」と佐藤講師。

学情のシステムは現在、平日ならダウンしても30分から1時間で復旧できる体制が整っている。だが、管理者がいなくなる夜間、休日は攻撃を受けやすく、トラブルにも対応が遅れる。

インターネット利用者は、夜間、休日に急増する。それは本学も例外ではない。今回のポートスキャンは、この盲点を突いてきた。それだけに悪質といえるだろう。佐藤講師は「知恵で対抗するしかない」といい、対抗策を練っている。一方で、「大学は常に狙われている。利用者も管理者も日々気を付けなければならない」。

（本紙・中田絢子＝比較文化学類）

街頭の犯罪にらむ

「スーパー防犯灯」を設置

天久保1丁目にも1台

センター地区に設置された防犯灯

つくばセンター地区を中心とする10カ所の路上で4月14日、街頭緊急通報装置、通称「スーパー防犯灯」が運用を開始した。設置者は県警生活安全部とつくば中央署で、8月のつくばエクスプレス開通をにらみ、学園都市の防犯対策を強化する狙いだ。

スーパー防犯灯は、高さ約6メートルの防犯灯に、非常用赤色灯、非常ベル、防犯カメラ、インターホンなどを一体化させたもの。センター地区付近のペデストリアンデッキを中心に、天久保1丁目のくいだおれ街など、犯罪多発地区に重点的に設置されている。

緊急時に通報ボタンを押すと、防犯カメラの映像が同署に転送され、インターホンで助けを求めることもできる。警察官が瞬時に付近の様子を把握し、現場に駆けつける。被害者救出や犯人逮捕が容易になり、事件の早期解決や犯罪抑止効果に期待している。

天久保地区内では一昨年末から本学生が巻き込まれた暴行、恐喝事件や火災が多発しており、スーパー防犯灯の設置は本学生の安全にも一役買いそうだ。

つくば駅前交番 4月1日に開設 本学も管轄内に

つくばエクスプレスのつくば駅前に「つくば駅前交番」が新設され、4月21日、開所式を行った。同交番の開設に伴い本学は、その管轄内に入る。

同交番には伊藤義孝所長以下10人の警察官が配属され、日常生活上の不安、ストーカーやセクハラの悩みなど市民から広く相談を受ける相談員1人を常駐させる。4月1日に開設して以来、5件の相談が寄せられている。建物は約133平方メートルの鉄筋2階建て、1階は円形でピンク色の壁が親しみを感じさせる。市民や観光客らが気軽に訪れることができるよう、相談を聞くコミュニティスペースというテーブルが設けられた。交番としては県内でも最大級の規模となる。

開所式には、市原健一つくば市長、鹿志村一つくば中央署長らが駆けつけ、センター地区の安全の確保に尽力するよう激励した。伊藤所長は「大学生にも詐欺や盗難だけでなく日常の悩みごとも相談にきてもらえれば」と話している。

取材メモ

駐輪場の増設でマナー改善

5月中旬、第二学群B棟と第三学群C棟裏に新しい駐輪場が完成する。この駐輪場には約600台の自転車、バイクを置くことができる。

自転車の駐輪マナーは、「悪すぎる」と学生の間でも問題になってきた。一学や保健管理センター前、二学と三学を結ぶ橋付近は、マナー違反の駐輪が特に目立つ。

一般の学生だけでなく、車いすの学生や障害のある学生、教職員なども駐輪マナーには閉口しているという。乱雑に駐輪された自転車に、行く手を遮られることもしばしばだ。

「人の自転車を寄せて、道をわざわざあけてくれる人もいる」と車いすの学生は話す。今年2月には、全学学類・専門学群代表者会議（全代会）が第3回駐輪マナー改善運動を行ったばかりだ。バリアフリー論を専攻する徳田克己教授（人間総合）は「学生のモラルの問題だけではない。駐輪場が少なすぎる」と訴えてきた。

昨年8月、施設企画課は「駐輪場は徐々に整備したい」と話していた。8カ月越しの計画が、ようやく始動したようだ。（T）

きくちゆみ平和講演会

間接的参戦回避へ 身近な運動を紹介

平和をより身近な問題として考えてもらおうと「平和活動家きくちゆみ講演会──うわべだけの、平和論じゃない。昼下がりのアツイ集中授業」が4月23日、1D204で行われた。学生団体DICTが主催し、学生のほか、社会人や教員ら56人が聴講した。

講演では、9・11以後のアメリカやイラク戦争に焦点を当て、戦争を回避するための身近な不買運動や、消費者運動、市民活動の具体的な方法が論じられた。きくちさんは国際経済の流れを説明し、戦争に加担しないために「自分が商品を購入した場合、支払うお金がどこに流れるのか考えて欲しい」と語った。

きくちさんが反戦活動を始めたきっかけは、9・11同時多発テロにある。ロンドンに住む自分の子どもたちを、日本に住むきくちさんは守れないと感じた時、世界平和の重要性を実感した。今では執筆活動のほか、反戦デモ、環境保全運動にも参加している。

講演後の質疑応答では、予定時間の一時間を超えてもなお、手が上がり続けた。友人に誘われて講演会に来たという加倉井祐一さん（国際3年）は「アメリカの新聞に意見広告を出す、そのお金が軍事費用に使われるかもしれない、という話に驚いた。お金の使い方によっては、自分も戦争を間接的に支持することに成りかねない」と話していた。

質問に笑顔で答えるきくちさん（1D204で）

車椅子から

菊地 尭

障害者としての意見求められ

新学期が始まって間もない4月中旬、初級システムアドミニストレータという情報処理関係の資格試験を土浦で受けた。コンピュータだけでなく経営学分野の知識も問われる試験で、難易度は低くない。大学で2年間学んだぐらいの経験では、正直厳しいものがある。それでも受験したのは、障害者としてではなく、一人の人間として自分の力を試してみたかったからだ。

車いすで生活していれば当然だが、一人の人間である前に、障害者として見られてしまう。この連載もそうだが、何か意見を求められるとき、必ず「障害者の視点で」という言葉がついてまわる。大学の設備や学生の支援制度についての問いかけなら、障害者という自分に与えられた立場で答えることに、幾分かの責任はあると思う。エレベーターのスイッチの位置が高すぎて一人で押せない場合があるなど、具体的な不満を持っているから、答えやすくもある。だが、政治や行政のありかたとか、環境保護についてとか、障害のあるなしと関係のない部分で障害者としての意見を求められても、答えられないので困る。

障害者にもそれぞれ意見の違いがある。僕の場合、例えば行政について、障害者としては福祉を最も重視するのが自然かもしれないが、経済や教育を充実させるなら、福祉はある程度切り捨てられても構わないと考えている。障害者だから平和を好むだろうと思うかもしれないが、国家が外交的に自立するためなら軍事基盤の整備は必要不可欠であろうとも考えている。健康な人でも、他者の偏見から逃れることはできない。だが、障害者の思想信条に関する偏見は、見た目が明らかに健常者と違うということもあって、ずっと強い。

ふと、昨年度の成績表を眺めてみる。A、B、C、Dの四文字が不規則に並んでいる。偏見の入り込む余地がない数値の世界の評価に心が和む。しかし、無個性な表では、自分をなにも表現できない。多少誤解されても、人と人の間にしか生きられないのが人間だ。誤解があるなら解く努力をすればいい。最近はそう考えることにしている。（図書館情報専門学群）

TOEFLテスト 18日に説明会

英語を母国語としない人を対象とした英語能力テストTOEFLと、TOEFL－ITPの受験方法についての、説明会が5月18日午後1時半から午後3時まで、大学会館3階国際会議室で開かれる。

受験方法だけでなく、同試験の特徴や留学する際の利用方法などについて説明する。説明者は留学生センター職員と国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部職員。説明会後に、質疑応答の時間が設けられている。

ピュリッツァー賞のロバート・リクター監督――

草野さん主演「長崎11・02」

各国との対談繰り返し 原爆の恐ろしさ訴える

草野史興さん

核兵器廃絶を求めて平和活動を続ける長崎市出身の草野史興さん（比文3年）が、ピュリッツァー賞を3度受賞した米国のドキュメンタリー作家、ロバート・リクターさん（75）が監督する映画「長崎11・02」に主演した。撮影は3月10日に終わり、8月7日の初上映に向けて、現在編集作業が進められている。

映画は、長崎、広島出身の若者や被爆者が各国の若者や政府担当者と対談しながら、核廃絶を模索するロードムービーで、世界の核兵器の現状を伝えている。主演は草野さんと、広島市出身で津田塾大大学院生の荊尾遥さん（22）、長崎市で被爆した下平作江さん（70）の3人。軍縮教育家キャサリン・サリバンさん（37）らも制作に携わっている。

8月7日の初上映は、長崎市茂里町の長崎ブリックホールで行う。広島など全国での上映会も計画されている。

撮影は、昨年12月、広島市から始まり、3月には約2週間かけてニューヨーク、パリ、ロンドンと続いた。国連の阿部信泰事務局長（軍縮担当）やアウシュビッツ捕虜収容所の生存者、各地の高校生らと意見を交換し、広島・長崎を訪れ、被爆者の実態を見てもらいたいと訴える手紙を届けた。

ニューヨークの高校などで下平さんが被爆体験を語り、原爆の恐ろしさを語る様子や、草野さん、荊尾さんが各国の軍事費が膨大な額に上ることを伝える様子も収めた。ホワイトハウス前で出会ったスペイン人が印象的だったという。「彼は反核の座り込みをもう20年間続けているんです。その姿に勇気づけられた」と草野さんは話す。

草野さんは長崎西高在学中、長崎市の第5代平和大使に任命されて以来、核廃絶を訴える市民活動に取り組んでいる。今月1－3日、ニューヨークのセントラルパークで行われた平和を求めるデモにも参加し、各国から集まった4万人の前でスピーチした。

草野さんは「戦後60年が経ち、被爆者が高齢化している。今、自分たちが原爆の恐ろしさを伝えなければ」と話している。

全代会

議長に市橋さん（人間3年） 30年の節目に見合う活動を

市橋創議長

竹林綾子副議長

佐藤翔副議長

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の今年度第一回本会議が4月27日午後、1D201で行われ、議長に市橋創さん（人間3年）、副議長に竹林綾子さん（情報2年）と佐藤翔さん（図情2年）を選出した。

選挙は、対立候補がないため信任投票が行われ、それぞれ第一回投票で信任票を得た。新議長となった市橋さんに、今年度の抱負を聞いた。

――今年度の目標は

教育の面では授業評価に積極的に力を入れていきたい。FD研修会に学生の意見を反映させることも重点目標だ。全代会としては各委員会で目標を設定し、適宜反省していく。

――具体的には

06年度から実施される学群再編に合わせ、全代会も組織改編の準備をしていきたい。また、今年は全代会30周年に当たるので、OBやゲストを呼んで講演会などの記念行事を行いたい。過去の活動を振り返る記念誌を発行することも検討中だ。宿舎風呂に関してはアンケートを実施し、学生の意見をまとめる。全代会としては営業時間をより需要のある時間帯にずらす方向で働きかけたい。

――学生から、「全代会が何をしているかわからない」との声があるが

ふとした瞬間に全代会の仕事を感じてもらえたら。いつの間にか宿舎周辺に電灯が増設された、図書館の開館時間が長くなった、便利だなと思ってもらえるだけで、全代会の存在意義はあると考えている。

静脈認証

20日、24棟で導入完了 街灯増設など安全対策も

全学生宿舎63棟のうち春日3号棟、平砂4、5号棟、追越12－15号棟、一の矢16－24号棟など24棟の玄関に新しいロックシステムとして導入される静脈認証装置の設置が5月20日までに完了する。導入が済んだ棟から順次、登録作業を行い、運用を開始するという。残りの39棟は5月末に導入される予定で、6月の運用開始を目指す。

平砂4号棟に導入された静脈認証装置

登録はデータ管理者の立ち会いのもとに、各棟で行う。入居者には5－6桁のID番号が割り振られ、登録作業は早ければ2分程度で終了する。入居者の静脈データの登録と管理は、従来の鍵の管理と同様に宿舎管理事務所が行う予定だ。

施設部施設企画課によると、データ登録は棟ごとに入居者全員で行うため、入居者全員の日程調整が必要になる。ID番号を忘れた場合や静脈を認証しないなどのトラブルに対応したマニュアルも作成している。

宿舎玄関への静脈認証システムの導入は、学内の防犯対策を強化するためセーフティープロジェクト（リーダー＝工藤典雄総務担当副学長）が進めてきた。防犯対策として今年度は、ループやペデストリアンを中心に街灯65灯を増設したり、学生宿舎周辺の樹木の剪定なども行っている。同システムの導入が完了すれば、「学生宿舎に関する施設および環境の整備」をテーマとしたタスクフォースは一段落する。

今後について同課は「つくばエクスプレス（TX）が開通すれば、学生や外部の人の流れも変わってくるだろう。タスクフォースの第2期の目標として、TXを見据えた安全対策を練っていきたい」と話している。

就職課主催

企業面接会始まる 25日、会館講堂で講演会

就職課主催による学内企業面接会の申し込みが4月27日から始まっている。5月の詳しい予定は以下の通り。

▼5月11日午後1時から。システムズ、シチズン電子、サンケン電機、会場＝午後2時から、エフ・ディー・シー、会場＝総合研究棟A107、108など。

▼5月18日午後1時から。ハートランドデータ、セコム、東京コンピュータサービス、極洋、トーセーシステムズ、山崎製パン、会場＝総合研究棟A108、110など。

▼5月25日午後1時から。東京めいらく（スジャータ）、エリートネットワーク、古河機械金属、日本ユニシス、大王製紙、アイ・テー・シー、会場＝総合研究棟A107、111など。

参加希望者は、事前に就職課（本部棟2階）へ大学所定の履歴書を提出し、申し込みを行う必要がある。履歴書は同課で配布している。

5月25日には大学会館講堂で、大学生活におけるキャリアデザインについて講演を行う。講師に音楽番組ポップ・ジャムなどのチーフプロデューサーを務める日本放送協会（NHK）の石原真さんを招く。自身の経験をもとに、大学時代にキャリアを築くためには何が必要なのか講演する予定だ。

問い合わせ＝029・853・6091（同課）

探訪 tanbō

華道部

カラー、スターチース、ドラセナ。すべて卓花の名前だ。まだ生けられていない白やピンクの花の横で、華道クラブの面々が花器の中の剣山にフトイの茎を生けていく。フトイは、花を生ける際に葉の役割をする。思い思いの形で生けていくため、人によって違った形になる。

毎週木曜日、文化系サークル会館で活動している。流派は日本最古の歴史を持つと言われる「池坊」だ。花器に自由に花を生ける「自由花」、平らな花器と、花を刺す剣山を使って生ける「盛花」、枝もの・花・葉の3つで「天」「地」「人」を表す「生花」の三種類の生け花を、楽しんでいる。師範の免許を持つ2人の先生に基本を指導してもらう。華道クラブは、池坊流の支部にも指定されていて、卒業までに池坊皆伝の資格を取ることもできる。

華道では、これから見ごろになる花を先取りして使うため、いち早く季節を感じることができる。代表の中川央充さん（看・医3年）は「花で季節を感じられるようになった」という。「道を歩いても、華道に使えそうな花を自然と探すようになりましたね」

「花の表情を活かして、向きを変えてみたら」と、師範の一人、大島とみさん。作品を手直しすると、「おお」と部員がうなずく。壁を背にして飾る時と、テーブルに飾る時では、バランスの取り方も変える。綺麗なバランスの基本はあるが、最終的には感覚がすべてだ。生け花は、師範との会話によって、少しずつ上達していく。「学生さんは素直に吸収してくれる。教える側も楽しい」と大島さんは話す。華道クラブで教えて10年目。何人もの学生の華道を見てきた。昔は、園芸クラブからきれいな蘭の花をもらったこともある。「最近はなくなっちゃったね」と寂しそうだ。

四季折々の花を使い 個人の思いを生ける

華道に魅せられた留学生もいる。オーストラリアから来ているヘレン・チャウさん（日・日特別聴講学生）はその一人だ。「新入生歓迎祭で生け花をみて、すぐにやってみたくなって」と微笑む。花は周りの雰囲気を明るくするから好きだという。「外国では、多くの花で華やかに飾るだけ。日本の生け花は、少なくても綺麗だし、いろいろな形があって面白い」と言いながら、使った花を新聞でくるむ。持って帰って、家でまた生けてみるのだと言う。

新たな試みとして4月29日－5月7日に催された地域の人に普段の活動を披露する芸術祭で、書道部との合同展示を行った。できあがった生け花のイメージに合った書道の作品を一緒に飾るのだ。書道部からの誘いを受け、合同発表が実現した。「素晴らしいものができあがった」と、中川さんは満足げだ。

いまや華道は、海外でも楽しまれつつある日本の伝統文化だ。だが、ここには敷居を低くして、他のサークルと交流することを通して、誰もが楽しめる「華道」がある。

（本紙・杉船竜也＝比較文化学類）

第31回やどかり祭

5月27日、28日に開催　交通規制を実施

第31回宿舎祭（やどかり祭）が5月27、28の両日、平砂学生宿舎をメーン会場に開催される。今年度のテーマは「青春やどかり切符」。他大学や地域の人々との交流を活発にしたいという願いが込められている。

28日の本祭のみこしパレードでは、全国大会の優勝経験も多い吾妻小学校のマーチングバンドが先頭を飾る。昨年好評だった、やどかりを模した「子供みこし」が今年も登場する。毎年恒例の浴衣コンテストは同日夜に行われる。

アルコール飲料の販売は昨年同様、「ビア・ミニステージ喫茶」に限り、購入の際は学生証など身分証を提示しなければならない。

◇　◇

宿舎祭の開催に伴い、5月27、28の両日、平砂・追越地区で交通規制が行われる。学生宿舎の西側にあるゆりのき通りを運行する路線バスは通常通り運転する。

◆通行禁止　ゆりのき通り
27日17時―22時
28日11時―22時半

◆片側通行　平砂・追越間宿舎内道路
27日15時―22時
28日9時―22時半

◆自転車通行禁止　平砂地区ペデストリアン
28日17時―22時
28日11時―20時

◆駐車禁止
仮設追越西駐車場＝24日18時―28日24時
平砂駐車場、仮設平砂西駐車場＝25日18時―29日17時
仮設西地区駐車場＝27日18時―28日24時

28日の本祭が雨天順延した場合、規制は1日ずつ順延される。駐車禁止になる各駐車場の代替は、野球場横の南地区駐車場を利用することになる。

宿舎祭来客用に同駐車場が27、28の両日、開放される。

第31回雙峰祭

参加団体を募集　受付は5月9日から

今年の雙峰祭は10月8日から10日までの3日間、行われる。テーマは「めぐりあい、つくば」。

これに向けて学園祭実行委員会は、一般企画と学術企画の参加団体を募集している。申込用紙は、昼休みに配布するほか、同委員会室（1C205）で受け取ることができる。

募集期間は、第1次受付＝5月9、10日、第2次受付＝6月5―7日の2回。夏休み前から宣伝する団体、大教室の使用を希望する団体は第1次受付で応募する必要がある。募集期間外の申し込みは受け付けないので、注意すること。

第一次、第二次受付ともに、午前11時35分から午後0時10分まで（1C205で）と、午後6時15分から午後8時半まで（1C306で）で受け付ける。ただし、6月5日は午後1時から午後4時まで1C306教室で受け付ける。

4月25日から6月7日まで、同委員会のホームページでも受け付ける。

申し込み＝http://www.sohosai.com/

問い合わせ＝029・853・2899（同委員会室）

Who's Who?

アースデイつくば実行委員長
市橋あいさん（生物資源学類3年）

学生と市民の架け橋に　「足元からの活動」目指す

もっとつくばに愛着を持って欲しい（第二学群B棟2階で）

つくば市内の33団体で構成される「アースデイつくば2005」の実行委員長に環境サークル「エコレンジャー」の市橋あいさん（資源3年）が就任した。「学生と市民の架け橋として、この活動を少しでも多くの人に広めたい」。委員長として1年間、運動の方向を決め、メディアに対応し、月数回の委員会に奔走する毎日が続く。

4月22日はアースデイ（地球の日）。1970年にアメリカで誕生した世界最大の環境フェスティバルの日だ。つくば市では91年、当時の本学生が活動を始めた。

アースデイつくばが年間を通じての活動を始めたのは01年。活動の内容は団体によりさまざまだが「足元のできる事から始める」という理念の下に協力しながら活動している。年に数回は「環境パネル展」などの合同企画も行う。

今年度は一般の学生や市民につくばの古民家やきれいな自然を訪ね、つくばの魅力を発見してもらえるものを企画した。「つくばに愛着を持てば、意識が変わり、ゴミの出し方ひとつも変わるはずだ」と意図を語る。

幼いころ、環境系の研究者を志した。「科学と生き物が大好きだった。リサイクルなどエコ活動をする母の影響もある」

出身は福井県。97年2月にロシア船籍のタンカー、ナホトカ号の重油流出事故があった。海岸に大量の重油が漂着。多くのボランティアが協力し、海は元の姿を取り戻した。自然の力に感動した。一方で原子力発電所の多い土地柄から経済か安全かという問題にも直面。環境問題の難しさも知った。「環境問題に取り組み、解決したい」という思いは強くなった。

研究者になるため生物資源学類に入学し1年の冬、エコレンジャーに入部。環境運動を始めた。その中でアースデイの活動を知り、世界規模の活動に驚いた。「アースデイをもっと多くの人に知ってもらいたい」と自ら実行委員長に立候補。「いつもアースデイを宣伝する機会はないかと目を光らせています」

大学に入り活動を始めてから夢は少しずつ変わってきた。「時間のかかる技術開発よりも、人の力を使った方が安全で早い」とまちづくりなど人と関わる仕事の重要性に気付いた。

一般市民との活動は危機管理の徹底など甘えが許されず苦労も多い。「今回はつくばの隠れた歴史、裏話などを地域の人から聞く事ができる」と楽しそうだ。「まちを一歩出てみれば、素晴らしい出会いが待っている」というのが市橋さんの「つくばのススメ」だ。

活動は一年にわたる長丁場。「足元からの活動」を目指して、挑戦は始まったばかりだ。

（本紙・兵庫義夫＝図書館情報専門学群）

広告　新人記者募集

マスコミに興味のある人
パソコンが得意な人
有名人に会いたい人
大学に詳しくなりたい人…

大学新聞では新人記者を募集しています

企画の立ち上げから取材、撮影、執筆、編集まで全て学生の手で行っています。
取材先は学生から学長はもちろん、オリンピック出場者やノーベル賞受賞者など、さまざま。

毎週1回、火曜日に共同研究棟A104で編集会議を行っています。ぜひ、のぞきに来てください。

お気軽にご連絡ください。
問い合わせ＝029・853・6699（編集室）、shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp（E－mail）

次号は6月13日(月)発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

1	ダ・ヴィンチ・コード（上下）	ダン・ブラウン／角川書店
2	問題な日本語	北原保雄／大修館書店
3	ダーリンの頭ン中	小栗左多里／メディアファクトリー
4	子供が育つ魔法の言葉	ドロシー・ロー・ノルト／PHP研究所
5	半島を出よ（上下）	村上龍／幻冬舎
6	何があっても大丈夫	櫻井よしこ／新潮社
7	となり町戦争	三崎亜記／集英社
8	きみに読む物語	ニコラス・スパーク／アーティストハウスパブリッシャーズ
9	ガンに生かされて	飯島夏樹／新潮社
10	夜のピクニック	恩田陸／新潮社

4月の1位は、ダン・ブラウンの「ダ・ヴィンチ・コード（上下）」。7位は「となり町戦争」。ある日届いた「となり町」との戦争の知らせ。変わらぬ日常に戦時下の実感がないまま、見えない戦争は着実に進んでいた。第2回本屋大賞を受賞した恩田陸「夜のピクニック」は10位。

催事は、東京大学出版会フェア（15％オフ、23日から6月30日まで）と辞書フェア（10％オフ）

催事

講演会

◆公開シンポジウム「建物の崩壊・破壊」　5月21日午前10時から午後5時まで、日本科学未来館（東京・港区）で。建物が壊れるメカニズムを解明し、防災対策について講演、体験コーナー、ミニ実験などを行う。主催は構造エネルギー工学専攻。

▽体験コーナー「発泡スチロールで作る強い橋コンテスト」＝午前10時半―午後4時半。講師は金久保利之・助教授（システム）

▽ミニ実験＝午前10時―午後5時。建物の解体模擬実験、簡易振動実験、地盤の液状化実験など。

▽講演＝第1部・午前11時―午後0時。第2部・午後2時―午後4時。講演者＝今井弘教授（システム）、鈴木弘之教授（同）、山田恭央教授（同）、境有紀・助教授（同）、庄司学講師（同）

問い合わせ＝http://www.sie.tsukuba.ac.jp/EME/（同専攻ホームページ）

◆「物流ベンチャーの挑戦者に仕事を学ぶ」　5月24日午後4時から午後6時まで、総合研究棟A1階の公開講義室で。受け付けは午後3時半から。カドイアンドカンパニーの門井大介代表取締役社長が、仕事の選び方、やり方など「仕事とは何か」を自身の経験談を交えて講演する。

参加は無料。

問い合わせ＝tsuka-n@mail2.accsnet.ne.jp（ビジネス・インフォメーション・ガーデン、大塚）

定期演奏会

◆管弦楽団第57回定期演奏会　5月15日午後2時開演、つくばセンター・ノバホールで。

メンデルスゾーン「交響曲第5番宗教改革」、ビゼーの組曲「カルメン」より抜粋、ロッシーニ「セビリアの理髪師」序曲。指揮＝大井剛史。A席800円、S席1200円。

問い合わせ＝090・6186・3962（武藤）

筑波野生動物図鑑

◇タテハチョウ◇

黒地の羽に青と白の筋が美しいタテハチョウ。成虫で越冬し、春先から飛翔している。大きさは約6センチ。

瑠璃色からは想像もつかない茶色の幼虫は、サボテンのようなとげをもつ。サルトリイバラやホトトギス（ユリ科）を食草にする。

写真は兵太郎池南の雑木林で撮影した。越冬した個体がアカマツの樹木の上で日にあたって美しい。

（文＝清水将太・生物2年、写真＝清野宏行・資源4年、野生動物研究会）